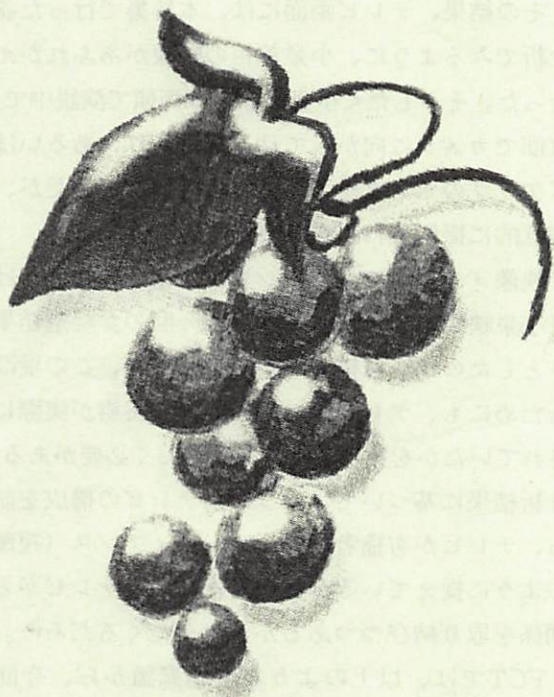


検証・参院選開票特別番組

テレビはどう「小泉現象」を 構成したか



CONTENTS

検証・参院選開票特別番組	2
テレビはどう「小泉現象」を 構成したか	
フジテレビ系関西テレビ	3
日本テレビ系読売テレビ	7
テレビ朝日系朝日放送	10
TBS系毎日放送	13
NHK	16
インターネットサイト「メディア・ リテラシーの世界」(MLPJ)から	19
ファシリテーター研修セミナーの 展開2 高槻市で連続講座の実践	20
会員コラム 「非人間的」だった同時多発 テロ事件報道 中野恵美子	22
データバンク 海外篇	23
国内篇	24

let GAZETTE

編集 Editors 鈴木みどり (発行人代表)
増田幸子、西村寿子

編集総務 Managing Editor 新開清子
構成・イラスト Art Director 市川雅美
表紙 坂下剛 (東京工科大学メディア学部)

データバンク Databank Writers
高橋 恭子、田島 知之
石原 純、中野恵美子

定期購読・発送 Subscriptions & Shipping
佐々木はるひ、友田和恵

印刷 Printing (株)カフムラ印刷

FCT市民のメディア・フォーラムは、1977年の創設以来、視聴者、研究者、メディアの作り手が、性別、年齢、職業的立場、社会的地位を超えて社会を構成する一人ひとりの市民として集い、メディアをめぐる多様な問題について語り合い、実証的研究と実践的活動を積み重ねるためのひろば(フォーラム)をつくる活動を続けている。メディア・リテラシーの研究と実践は、FCT活動の中核をなすものであり、すべての市民、特に子ども、女性、高齢者、障害者、民族的・人種的少数者などのマイノリティ市民の視点から、メディアを社会的、文化的文脈で読み解く活動(調査報告書の作成、各地でのワークショップ、シンポジウムの開催など)を展開している。

特定非営利活動法人
FCT市民のメディア・フォーラム
Forum for Citizens' Television & Media

理事 鈴木みどり、新開清子、
宮崎寿子、西村寿子、
増田幸子、佐々木はるひ、
篠塚 公 (MLP担当)

Media Literacy Project in Japan:
<http://www.mlpj.org/>

神奈川県三浦郡葉山町長柄1601-27
Fax 事務局 : 81-045-941-8214

資料問い合わせ
Tel&Fax 0466-81-8307

銀行振込 東京三菱銀行藤沢支店
普通預金 1559401

郵便振込エフシーティー00190-3-84097
購読料 : 年2,500円 (3回発行)

検証・参院選開票特別番組

テレビはどう「小泉現象」を構成したか

2001年7月29日(日)、21世紀最初の国政選挙となった参議院通常選挙の投票日を迎え、テレビは全局午後8時の時報を合図にこの日のために周到に準備してきた開票特別番組を開始した。CG技法を駆使したオープニング、各局お馴染みのキャスター・評論家・タレントの面々、出口調査に基づく議席予測、開票が進むにつれて増えていく当選者インタビューと、いつもの通りに騒然として興奮状態が続く“政治ショー”である。

いや、「いつもの通り」という表現は、実際のところ、正確とはいえない。というのも、今回の参院選開票速報番組では全般的に政治の娯楽化がこれまでになく進行していたからである。そうした傾向を促進したのは、指摘するまでもなく、4月以降の「小泉現象」に対する各局の姿勢である。いずれの局も「小泉人気」という捉え方でこの現象を複数の特集VTRに編集して事前に準備し、それらのVTRを開票速報に織り交ぜながらなんども放送するという構成をみせた。

その結果、テレビ画面には、本特集で行った各局の構成分析でみるように、小泉首相の映像があふれかえることになった。そうした<小泉映像>は街頭で演説中であったり、官邸でカメラに向かって話していたり、あるいは超クローズアップのポスターであったりとさまざまだが、いずれも好意的に撮影された映像である。

映像メディアであるテレビは、なぜ、これだけ集中的に<小泉映像>を提示する構成で今回の参院選結果を伝えようとしたのか。有権者である私たちは、この疑問に取り組むためにも、テレビ各局の開票特別番組が実際にどう構成されていたかを実証的に分析しておく必要がある。さらに、分析結果に基づいて、そうしたテレビの構成を読み解くなら、テレビが有権者であるオーディエンス(視聴者)をどのように捉えているか、いま、政治とテレビがどのような関係を取り結びつつあるかがみえてくるだろう。

FCTでは、以上のような問題意識から、今回の参院選開票特別番組を全局録画して分析を始めていた立命館大学

メディア・リテラシー研究プロジェクトに協力し、各番組の構成の流れをく小泉映像>に焦点をあてつつ書き取る作業に参加して、有権者である市民の視座から各局における「小泉現象」の構成を検証する特集を組むことにした。なお、録画は関西で行ったものであり、分析の対象としたのはフジテレビ系関西テレビ、日本テレビ系読売テレビ、TBS系毎日放送、テレビ朝日系朝日放送の関西準キー4局とNHKの計5局の参院選開票特別番組である。

以下に、局ごとにまとめた「構成の流れ」、全体の傾向とく小泉映像>の詳細分析を、紙面のゆるす範囲で報告する。番組はいずれの局でも当選議席数がほぼ確定する深夜の2時、3時まで続いたが、ここでは、メインキャスターが登場している部分を中心に分析している。

なお、分析の焦点であるく小泉映像>については、さまざまな形で現れるので、それらを次のように分類した。報告では、これらの数字で表記している。

く小泉映像の分類>

- ①ポスターの小泉首相 (CU)
- ②局によるパネル画像
- ③街頭演説中の小泉首相
- ④人びとに囲まれる小泉首相
- ⑤生中継インタビュー (党本部)
- ⑥TV出演している小泉首相VTR
- ⑦その他の公務中の小泉首相 (官邸、国会、自民党本部、記者に囲まれて話す、等)
- ⑧その他 (シシロー、CG、アニメ、候補者と一緒のポスター、子ども期の写真、等)

注：各セグメントで登場する時間が長い場合は白抜き文字①②③④⑤⑥⑦⑧で表記した。

立命館大学メディア・リテラシー研究プロジェクトとしての本調査は現在も進行中であるが、本誌におけるこの特集のための分析に参加したのは、FCTおよび立命館大プロジェクトの以下のメンバーである：石原 純、新開清子、田島知之、友田和恵、登丸あすか、西村寿子、畠山亮太、鈴木みどり。

フジテレビ系関西テレビ

「聖域なき生直撃FNN真夏の大変革 小泉維新に骨太審判」

・小泉首相を番組の中心にすえ、小泉に始まり小泉に終わる構成になっている。番組は前日にスタジオへ招いて収録した小泉首相への独占インタビュー (VTR) で始まるが、その際、首相のキャッチフレーズ「聖域なき～」をもじった番組タイトルを首相自らコールする。さらに、番組の途中で、首相の生中継インタビューを他局に先駆けておこなうことを再三強調し、エンディングでは首相の少年期から現在までをセピア調の写真で振り返りながらドラマチックなBGMをかぶせ、首相のVサインで終わる、という具合である。

・く小泉映像>は全体的に多いが、特に目立っているのは街頭演説中の映像 (③) である。特集VTRやCMへ転換するときや、スタジオの背景映像など、様々なところで使われている。しかも演説内容ではなく、歌や激しい身ぶり、口調など首相のパフォーマンス的な部分を強調し、その映像と人々の熱狂ぶりを交互に配することで小泉ブーム、小泉人気という「現実」をつくりだしている。また、スタジオのモニターには常に首相の映像が流れ、小泉グッズやパネル画像を配置して、首相の「存在」を終始感じさせるつくりになっている。意見を述べている野党議員の背後に小泉の映像が流れているといった場面もみられる。

・人々を「群集」として捉える映像が多いのもこの番組の特徴である。首相の周りに集まる大勢の人を上空から撮ったり、演説に熱狂する人々 (その多くが女性) をハイアングルで撮った映像を多用し、まるでひとつのかたまりのように表現している。一方で「街の声」は一度もなく、市民一人ひとりの意見は映像としてはほとんど紹介されない。

・東京のフジテレビ制作の部分だけでなく大阪の関西テレビ制作の部分も多いが、橋本派の候補に小泉構造改革への「忠誠」を試すよ

うな質問を投げかけたり、小泉人気をとりあげたVTRを多く流したりと、似たようなものが多い。ただ関西のスタジオでは、東京のように背景に小泉映像が常に流れているようなことはない。

＜小泉映像＞の具体的内容

番組の構成の流れ（次頁）に沿って、各セグメント（S）で見られる＜小泉映像＞の具体的な内容を以下に説明する。

[S1] ⑤(1)フジテレビが前日に行った独占インタビュー映像。純和風のセットに小泉首相を招き、安藤優子キャスター、タレントの石原良純が聞く。(2)小泉首相による番組タイトルコール。／③④独占インタビュー中に小泉首相の背後にある大型マルチスクリーンに映し出される。

[S2] ②国会記者会館にフジテレビが独自に制作した特設ステージの背景パネル画像（小泉首相の顔をローアングルで撮影した写真に日本列島を重ね合わせたデザイン）。インタビューを受ける石原大臣が画面に映る時に小泉パネル画像も背景として映る。／③(1)[S1]の③と同様。(2)スタジオのセットの一部として設置されているモニター画面に、マイクを持って演説する小泉首相のCU映像。／④[S1]の④と同様。／⑥[S1]の⑥(1)と同様。／⑦小泉首相と石原都知事が握手。その手をCU。／⑧CM直前に、慎太郎人形と一緒にシシロー人形がCU。

[S3] ③選挙カーの上に立ち、演説。

[S4] ①⑧北岡秀二候補・自の万歳の場合、背景に小泉ポスター、小泉首相と一緒に候補者のポスター。／③演説中の小泉首相をローアングルで。

[S5] ①谷川秀善候補・自の選挙事務所に並べて貼られた9枚の小泉ポスター。そのうちの1枚にCU。／③谷川候補と一緒に選挙カーの上で演説。／⑧(1)谷川候補のポスターの右上隅に円形の小泉首相の似顔絵、(2)事務所に飾られた小泉首相と候補者が一緒に映っ

ている写真、(3)小泉首相の似顔絵がプリントされたTシャツ（候補者の事務所で売られている）。

[S6] なし

[S7] ③街頭演説中の小泉首相／④演説を聞きに集まった人々に手を振る小泉首相。／

⑧(1)北岡候補の事務所に立ててある小泉首相の全身パネル。(2)小泉首相と一緒に候補者のポスター。(3)北岡候補の支援者が写真を切り抜いて作成した小泉仮面、仮面をCU。

[S8] ①⑧北岡候補当確中継インタビュー中、背景に小泉ポスターと小泉首相と一緒に候補者のポスター。／③選挙カーの上から手を振る小泉首相。／④人々に囲まれる笑顔の小泉首相の横顔をCU。

[S9] ③(1)スタジオのセットの一部として設置されているモニターに映る。(2)各政党党首に中継が切り替わる間にスタジオが映される時に、モニターに小泉首相が映る。／⑤中継インタビュー中の小泉首相の顔をCU。／⑧中継インタビュー中、机の上に置かれたシシロー人形のCUから小泉首相へ。

[S10] なし。

[S11] ③[S9]の③と同様。

[S12] ③演説する小泉首相の映像の間に歓声をあげる女性たちの映像や「ジュンちゃん」と書かれた団扇のCU映像が挿入される。

[S13] ③小泉首相のCUが多用される。日の丸をふる人々や歓声をあげる若い女性を映すショットが演説中の小泉首相を映すショットの間に挟み込まれる。選挙カーの周りに集まる人々を上空から映すショットと小泉首相の顔のCUショットがディゾルブでつながれる。／④車を降りて手を振る笑顔の小泉首相にズームイン（Z-in）。車の中から手を振る小泉首相がスローで映される。／⑧小泉ストラップ、小泉Tシャツ（白黒の小泉首相がプリントされたものと谷川候補がつくった小泉首相の似顔絵がプリントされたもの）。

[S14] ③小泉首相のBS。

2001年7月29日(日)フジTV系20:54～「聖域なき生直撃FNN真夏の大変革小泉維新に骨太審判」

	時刻	内容 (「」内はテロップを引用、インタビュー=イ)	小泉映像	時間量
1	21:13:53	OP東京スタジオ(S) +VTR VTR小泉首相・自、前日の独占イ安藤優子キャスター、石原良純(タレント) /タイトル「聖域なき生直撃 FNN真夏の骨太審判」(VTRで小泉首相が タイトルコール)	③④⑥	5:17
2	21:19:10	東京S +VTR 安藤、石原、黒岩祐治アナ、木佐彩子アナ、木村太郎、岩見隆夫 投票率、議 席数予測、開票状況/石原伸晃行革担当大臣・自にイ/CM/VTR小泉首相 にイ/石原大臣にイ/CM/石原慎太郎東京都知事に電話イ/CM/全国の開 票状況 田代尚子アナ、須田哲夫アナ/石原大臣にイ/CM	②③④⑥⑦	25:35
3	21:44:45	OP大阪S +VTR VTR平成元年夏の参議院選における自民党大敗からこれまでの流れ/タイトル「K TV参院選開票速報 どうなる?小泉改革に審判」(マイクを持って話す小泉首相)	③	1:36
4	21:46:21	大阪S 山本浩之アナ、森毅、飯星景子、西川のりお、青山繁晴(政治ジャーナリスト) 近畿2府4県と徳島の開票状況/CM/大阪の開票状況	①③⑧	11:22
5	21:57:43	特集VTR 谷川秀善候補・自の選挙戦を振り返る(選挙事務所内のポスターなど)	①③⑧	2:03
6	21:59:46	大阪S 谷川候補にイ/CM/大阪の開票状況/CM/メールアンケート/CM/近畿 の開票状況/CM		20:27
7	22:20:13	特集VTR 橋本派の闘い 徳島・北岡候補・自(小泉首相の全身パネル、小泉仮面)	③④⑧	1:53
8	22:22:06	大阪S 北岡秀二候補にイ(小泉ポスター、候補者と一緒に映るポスター)/CM	①③④⑧	7:37
9	22:29:43	東京S 中継イ小泉首相/鳩山党首・民にイ/神崎代表・公にイ	③⑤⑧	12:10
10	22:41:53	大阪S 兵庫の開票状況/CM		2:24
11	22:44:17	東京S 扇党首・保にイ/志位委員長・共にイ/土井党首・社にイ/藤井幹事長・由に イ	③	10:46
12	22:55:03	大阪S CM/CM/出演国会議員紹介 高市早苗・自、森本晃司・公、松本剛明・民、 吉井英勝・共、森岡正宏・自/世耕弘成候補・自にイ/CM	③	12:22
13	23:07:25	特集VTR 「空前の人気『小泉ブーム』」(演説中の小泉首相のCU、小泉グッズ)	③④⑧	1:43
14	23:09:08	大阪S 小泉人気についての議論/近畿・徳島の開票状況/CM	③	10:17
15	23:19:25	特集VTR 「低迷する景気」(演説中の小泉首相のCUをスローで)	③	1:06
16	23:20:31	大阪S 景気と構造改革についてのメールアンケートと議論/CM/近畿・徳島の開票 状況/メールアンケート/CM/議論	⑦	18:27
17	23:38:58	特集VTR 「沈黙する『抵抗勢力』」(野中氏と一緒に映る小泉首相、国会での小泉首相)	③⑦	1:31
18	23:40:29	大阪S 橋本派について議論/CM/自公保連立についてメールアンケートと議論/CM /自公保連立について議論/CM/京都の開票状況		21:03
19	0:01:32	東京S +VTR 亀井静香・自にイ/岡田克也政調会長・民、石原大臣、麻生太郎政調会長・自、 青木幹雄参議院幹事長・自、渡辺喜美・自を交えた議論/インターネットアン ケート/CM/全国開票状況/議論の続き、鈴木宗男・自スタジオへ/CM/ VTR小泉首相にイ/「抵抗勢力」について議論「自民党は変わるのか?」/ 候補者たちの勝利と敗戦の弁/CM	②③④⑥⑦⑧	47:55
20	0:49:27	特集VTR 「『小泉旋風』で超ラッキー?!」(候補者と一緒に映るポスター、演説中の小泉首相)	①③⑦⑧	3:10
21	0:52:37	東京S +VTR 全国開票状況/小泉顕雄候補・自にイ/田嶋陽子候補・社VS舛添要一候補・ 自イ/VTR野中弘務元幹事長・自のコメント/VTR加藤紘一元幹事長・自 のコメント/CM/VTR小泉首相イ/改革に必要なパートナーについてのア ンケート結果/麻生イ/扇イ/神崎イ/CM/全国開票状況/自民党本部から 中継/CM	②③⑥⑦⑧	34:58
22	1:27:35	特集VTR 「激闘17日間 総理の熱い夏」(選挙カーの上で演説する小泉首相)	①③④⑦⑧	4:54
23	1:32:29	東京S 小泉現象について(自民党本部に貼られたポスター)/CM/全国開票状況	①②⑦	5:51
24	1:38:20	特集VTR 「旋風吹く7.29ドキュメント」(選挙結果について語る小泉首相)	①⑦⑧	3:48
25	1:42:08	東京S CM/今回の選挙について/エンディング(少年期から現在に至るまでの38 枚の小泉首相の白黒写真)	①⑦⑧	6:17
	1:48:25	番組終了		

[S15] ③小泉首相CUをスローで。
 [S16] ⑦国会で答弁する小泉首相。
 [S17] ③選挙カーの上で野中氏と一緒にの小泉首相。この映像が2度使われ、2度目はスローで。／⑦国会で抵抗勢力について語っている小泉首相。
 [S18] なし
 [S19] ②[S2]の②と同様。インタビューを受ける渡辺喜美・自が画面に映る時に小泉パネル画像も背景として映る。／③スタジオのセットの一部として設置されているモニターとマルチスクリーンに映る。／④[S1]の④と同様。／⑥(1) CM直前に、前日の独占インタビュー映像の一部。(2) CM後、前日の独占インタビュー映像。／⑦(1) 自民党本部で当確が出た候補者にシシローマークを付ける小泉首相。小泉首相のCUを多用。(2) スタジオで出演者が議論をしている間、背後のマルチスクリーンにシシローマークを付ける小泉首相が映される。／⑧当確のバラの代わりに使われたシシローマーク。シシロー・ポロシャツ、シシロー・マグカップ。
 [S20] ①選挙カーに貼られた小泉ポスター。／③選挙カーの上から手を振る小泉首相。／⑦横浜での講演、演説／⑧小泉首相と一緒にの候補者のポスター。
 [S21] ②自民党比例の開票速報時に背景として小泉パネル画像が使われる。／③[S19]の③と同様。／⑥(1) CM直前に、前日の独占インタビューの一部。(2) CM後、前日の独占インタビュー。／⑦CM直前に、自民党本部の候補者の名前が書かれたボードの前でVサインの小泉首相。／⑧自民党本部、当確候補者の名前に付けられたシシローマーク。小泉首相が持っているシシロー人形。
 [S22] ①選挙カーに張られたポスター。／③選挙カーの上で演説する小泉首相をCU。／④小泉首相を見にくる人々(CU、上空からの映像)、小泉首相を追いかける人たち、市民と握手をする小泉首相、声援を送る女性た

ち。／⑦水を飲む小泉首相、官邸内で扇大臣と会談する小泉首相、電車で移動中の小泉首相、色紙にサインする小泉首相。／⑧小泉首相のTシャツ、携帯電話の待受画面に小泉首相の顔、過去の小泉首相の演説場面(セピア色)。

[S23] ①(1) 自民党本部に貼られた巨大な小泉首相のポスター(ローアングル)。(2) 選挙事務所に貼られたポスター。／②自民党比例の開票速報時に背景としてパネル画像が使われる。／⑦(1) 官邸前で記者たちに囲まれる小泉首相。(2) 車に乗り込む小泉首相。自民党本部の候補者の名前が書かれたボードの前でVサインの小泉首相。

[S24] ①自民党本部に貼られた巨大な小泉首相のポスター。(上空から)／⑦(1)[S23]の⑦と同様。(2) 自民党本部で選挙の結果について語る小泉首相。(3) 首相官邸から出てきて車に乗り込む小泉首相。車から降り自民党本部に入る小泉首相(スロー)。ボード上の当確候補者の名前にシシローマークを付ける小泉首相。自民党本部でVサインをする小泉首相。舛添氏と握手する小泉首相。／⑧当確候補者に付けられたシシローマーク、シシロー人形、マグカップ。

[S25] ①ローアングルで太陽の光を背に25枚の小泉ポスターが映され、その1枚がCUされる。／⑦自民党本部でVサインをする小泉首相。首相官邸から出てくる小泉首相、自民党本部に入る小泉首相(スロー)。ボード上の当確候補者にシシローマークを付ける小泉首相。番組の最後は、暗くなったスタジオにあるマルチスクリーンにVサインの小泉首相が映される。／⑧ドラマチックなBGMにのせて、少年期から現在に至るまでの小泉首相のモノクロ写真38枚(少年期の小泉首相、学生時代の小泉首相、演説する小泉首相、過去の小泉首相のポスター、記者たちに質問される小泉首相など)がディゾルブでつながれる。

日本テレビ系読賣テレビ

「2001年NNN参議院選挙特番～今、改革の 鼓動が聞こえる その時、真紀子・小泉は」

・<小泉映像>の特徴は、街頭演説中の映像(③)、大勢の人びとに囲まれる映像(④)、特集VTR(S2、6)で使用されるCGである。以下に述べるように、見る者に好感を与える肯定的なく小泉映像>、取り囲む大勢の人びと、首相を礼讃する若者、首相の力で当選できた無名の新人候補などで小泉首相を持ち上げる一方、小泉改革に疑問を呈する人びとを「政界のドン」「抵抗勢力」として登場させており、小泉首相を軸に動いた選挙として全体を構成している。

・大勢の人びとに囲まれる<小泉映像>の場合、首相の表情はいつもにこやかである。嫌な顔ひとつせず握手や声援に応えている映像、声援に驚く表情の映像が使用されている。服装もワイシャツ姿で、ラフな印象を与えている。首相を取り囲む人びとが日の丸を振る映像も多用されている。若者(21歳、男性)のインタビューではその部屋に大きなポスターを配置し、若者に(首相は)「みんなの悩みを解決しようとしている」と手放しで礼讃させている(S6)。

・街頭演説の際の<小泉映像>は、大きく腕を振り上げるパフォーマンス、顔のクローズアップや、話している口調、テロップなどから断固として「改革」を訴えるという構成になっている。

・登場する自民党関係者には3つのパターンがある。一つは田中外相や塩川財務大臣といった小泉内閣の看板。もう一つは「小泉人気」にあやかって選挙を戦い当選する無名新人(大分、奈良)。さらには「抵抗勢力」としての橋本派である。S10、S16で野中氏と橋本派に焦点があてられるが、宣伝カーの上でにこやかに演説する首相を「暗い視線」で見つめる野中氏という映像の構成になっている。

・S17での首相のインタビュー映像、インタ

ビュー内容、VサインはS18、22、24で何度も使用されている。各党代表者のインタビューの途中でVサイン映像がかぶせて用いられている(鳩山、菅・民など)。このことによって、否応なく小泉・自民党が大勝したことを視聴者が確認するという構成になっている。

<小泉映像>の具体的内容

[S1] なし。

[S2] ⑧タイトルバックに顔CU/⑤スタジオに首相CG、外相CGアナウンサーと並んで座っている/④側近に囲まれて歩いていく(上空からの映像)。それを取り巻く日の丸の旗をふる大勢の人びと/④車から顔を出して手をふる首相/④ステージの上で握手する(LS)。ステージの前の大勢の人びとが日の丸の旗をふっている/④人びとにもみくちゃにされる首相/④多数の人びとが自分を待ち受けているのを見て驚いた表情をする。画面右下に日の丸/⑦疲労のため新幹線内で倒れる時の映像→倒れてうつ伏せになっている首相/⑧首相が大分入りをして大勢の人びとが宣伝カーを取り囲む(想像をCGで)/⑦回復して歩いて出てくる。金屏風の前で手を振る。顔のCU/①後藤候補(大分)事務所前のポスター/③日の丸の旗を持つ大勢の人びとが待ち受けている。宣伝カーの上で後藤候補(大分)の手を上げて紹介する/⑧小泉人形(他党の党首の人形もあるが、一番手前右側に配置)

[S3] ③京都選挙区で宣伝カーの上で応援演説→野中氏の手をにこやかな顔で上げてみせる首相/③奈良選挙区で新人の荒井候補と共に宣伝カーの上で応援演説をする首相。横で荒井候補が踊っている。

[S4] ③応援演説をする首相をCU(大阪では今回タレント候補はいない。注目を集めるのはこの人というナレーション)/③大阪駅前演説を聞いている人びと/④人びとに囲まれて歩いている(韓国SBSの映像)/⑧青い小泉Tシャツを持つ女性2人(韓国SBSの

映像)。

[S5] ③宣伝カーの上で手をふる首相(ハイアングル)／⑧候補者(小泉顕雄候補)と一緒にのポスター。

[S6] ⑧スタジオに首相CG、外相CGアナウンサーと並んで座っている／④白いワイシャツ姿の首相、遊説中に大勢の人びとに握手を求められる。にこやかに応じる首相。まわりに日の丸の旗を持つ人びと／①党本部の建物に貼られた巨大ポスター(上空からZ-in)。／④党本部で待ち受けた人びとに握手を求められる／③マイクを持ち演説する(声援に驚く表情)。にこやかな表情(BS／④新幹線に乗り、窓越しに人びとと手を合わせてにこやかな表情の首相)。

①若者の部屋に貼られた特大ポスター。若者のインタビューの背景に／③投票日前日夜におおきな身ぶりで演説する首相(正面、CU)「自民党を変えます。変えて見せます」と絶叫／⑧スタジオに首相CG、外相CGアナウンサーと並んで座っている。「僕は改革を訴えた」とキッとした表情になる。

[S7] ⑦スタジオ内のモニター映像に映る記者のインタビューに答える首相。顔CU／⑧スタジオ内。「田中真紀子さんを外務大臣に起用したことに賛成? 反対?」というフリップに顔写真。

[S8] なし。

[S9] ③演説中の静止映像、CU(鳩山党首・民と並べて)／③「純ちゃん」と叫ぶ若い女性。応援演説をする首相(荒井候補・奈良)／①荒井候補のインタビュー映像の後ろに首相の巨大ポスター／①荒井候補事務所内に候補者と一緒のポスター。

[S10] ⑧総裁選挙で結果が明らかになった時のモノクロ映像(大勢の人びとと並んで座っている。立ち上がって一礼する→CU)／③宣伝カーの上で応援演説(野中氏と違う方向を向いている)／①ポスターCU。

[S11][S12] なし。

[S13] ⑦インタビュー映像／⑦大仁田候補と並んで「ファイアー」と叫び手を上げている首相。2回繰り返される。

[S14] ①荒井事務所にポスターCU／⑧荒井事務所神棚に首相の写真。Z-in。

[S15] ⑦(末広候補の中継インタビューを打ち切って)自民党本部から中継。首相が党本部に入ってきてエレベーターに乗りこむ／⑦首相官邸を出て車に乗り込む首相。

[S16] ③橋本派候補の応援で選挙カーの上で演説する首相(上から)／③演説する首相を後ろから思いつめた表情で見つめる野中氏(スロー)。

[S17] ⑦自民党本部で候補者一覧のボードにシシロマークをつける首相／⑦中継 自民党本部で候補者一覧のボードの前でVサイン→CU／⑤スタジオ内のモニター。いくつものモニターに首相の顔。→中継でインタビューに答える、正面BS→CU／⑦党首インタビューにかぶせて首相のVサイン映像(民主党、保守党)。

[S18] ⑦インタビューダイジェスト(S17と同じ)／⑦自民党本部で候補者一覧のボードの前でVサイン。

[S19] ④日の丸の旗をふる大勢の人びとに伝えて手をふる首相CU。

[S20][S21] なし。

[S22] ⑦自民党本部で候補者一覧のボードの前でVサイン／⑦自民党本部で候補者一覧のボードの前でシシロマークをつける／⑦自民党本部で候補者一覧のボードの前でVサイン(山崎、青木と3人で)。各党代表インタビューの合間に挟み込む。菅直人のインタビューに小泉のVサイン映像をかぶせる。

[S24] ⑦インタビューダイジェスト(S17)／⑦自民党本部で候補者一覧のボードの前でVサイン(山崎、青木と3人で)／⑦自民党本部で候補者一覧のボードの前でVサイン／⑧スタジオのフリップのなかに顔写真。

2001年7月29日(日)日本TV系19:58～

「2001年NNN参議院選挙特番～今、改革の鼓動が聞こえる その時、真紀子・小泉は」

No.	時刻	内容(「」内はテロップを引用、インタビュー=イ)	小泉映像	時間量
1	19:58	OP 東京スタジオ(S)+VTR スタジオ福澤明アナ/出口調査結果発表(自公保王勝)/中継イ外添要一、田嶋陽子/VTR「この候補者に注目します」/スタジオ各政党関係者(石原伸晃・自、渡辺喜美・自、辻元清美・社、松沢成文・民)、テリ-伊藤、猪瀬直樹、橋本五郎/中イ塩川正十朗/ときめき携掛隊/VTR 大仁田厚/CM		19:24
2	20:17:24	東京 S+VTR タイトル「鼓動」/スタジオ小泉、田中 CG/VTR「列島興奮コイズミ選挙」小泉遊説に熱狂する人びと/無名の大半選挙区候補に応援/スタジオ出口調査/CM	①③④⑦⑧	7:46
3	20:25:10	OP 大阪 S+VTR 女性 N/坂泰知、岩田公雄、植村なおみ、幸治治郎/VTR 塩川/VTR 兵庫 W 選挙/京都、野中広務/水着などの映像	③	2:25
4	20:27:35	大阪 S+VTR 近畿選挙区の出口調査/中継イ滋賀・世耕弘成・自事務所/スタジオ小泉内閣支持率、投票率/CM/VTR「激戦大阪タレント票予測」/各地出口調査/海外メディアの反響	③④⑧	24:25
5	20:52:00	東京 S+VTR VTR「こんな候補者もいました」/中継イ小泉顕雄候補(同名にあやかる候補)/CM	③⑧	3:42
6	20:55:42	東京 S+VTR スタジオ CG 小泉、田中/VTR「どこに投票小泉ファンの選択」/小学6年/21才の若者部屋にポスター/出口インタビュー/スタジオ CG/CM	①③④⑤	6:18
7	21:02:00	東京 S+VTR VTR「真紀子外相コレが応援」田中演説/大勢の人/群馬選挙区/新潟選挙区/コンサート田中インタビュー/出口調査/田中外相めぐるスタジオでの議論	⑦⑧	12:07
8	21:14:07	特集 VTR VTR「VIP 巨泉のぶらり旅」帰国/由紀夫ちゃんシール/巨泉遊説/以前の VTR		3:33
9	21:17:40	大阪 S+VTR 女性 N/近畿選挙区開票状況/CM/VTR ねじれ選挙の兵庫選挙区/大阪白浜・公当確中継/VTR 小泉人気に頼る奈良選挙区荒井正吾候補(選挙カー上)/開票状況	①③⑧	11:20
10	21:29:00	大阪 S+VTR VTR「総理の座をかけた男」(テ)政界のドンに密着/野中広務/CM/遊説/インタビュー/総裁選 VTR/スタジオ/自民党派閥別勢力/笹野事務所/CM/	①③⑧	11:00
11	21:40:00	大阪 S+VTR VTR「タレント議員」藤原あき、石原慎太郎、横山ノック、青島幸夫、西川きよし、扇千景/スタジオ非拘束式名簿の説明/中継イ谷川秀善/議席状況		5:02
12	21:45:02	東京 S スタジオ/景気めぐり塩川財務相に中継イ/株価の推移/CM		5:36
13	21:50:38	東京 S+VTR 中継・大仁田厚母/VTR「ファイアーマンとお兄ちゃん」/CM	⑦	6:57
14	21:57:35	大阪 S 中継・近畿各事務所/スタジオ/中継・大阪山本たかし・民/CM/中継・奈良荒井事務所(小泉追い風)/出口調査にみる内閣支持と自民支持/近畿の開票状況/CM	①⑧	10:39
15	22:08:14	東京 S+VTR VTR「マキコ違いで孤独な選挙」末広まきこ候補の選挙戦	⑦	6:57
16	22:16:11	東京 S+VTR VTR「橋本派と抵抗勢力」/橋本元首相/野中広務/鈴木宗男中継イ	③	15:39
17	22:31:10	東京 S 各党首中継イ 自民党本部/中継イ高祖候補・自/小泉首相/鳩山党首・民/神崎代表・公/CM/扇党首・保/志位書記長・共/土井党首・社/自由党本部/CM	⑤⑦	27:31
18	22:58:41	東京 S+VTR VTR 小泉インタビューダイジェスト/スタジオ小泉発言をめぐって各党代表者の議論/CM/比例区予測ランキング/自民党開票状況/中継イ田嶋陽子/VTR 小泉イ/CM	⑦	15:37
19	23:14:18	大阪 S+VTR 近畿当確者事務所中継/CM/奈良・荒井候補・自/VTR 候補者たちの暑い夏/CM	④	10:18
20	23:24:36	東京 S 中継岩手選挙区/		4:36
21	23:29:12	スポーツ		20:05
22	23:49:17	東京 S+VTR VTR 小泉 V サイン/井田由実アナ、柏谷記者/スタジオでの議論、新藤、東・自、赤羽・公、松浪・保、福島・社、小池・共/中継イ外添、大橋、田嶋、大仁田/自由連合/獲得議席の推移/比例ランキング/CM/スタジオ自民党勝利をめぐる議論/CM/各党に中継、山崎・自/菅・民/CM/神崎・公/扇・保/土井・社/志位・共	⑦	62:12
23	0:51:29	大阪 S 投票率/近畿開票状況		8:36
24	0:59:55	東京 S+VTR スタジオ各党代表者/開票状況/CM/VTR 小泉インタビューダイジェスト/不良債券処理と失業者めぐる議論/CM/雇用めぐる議論/CM/竹下王国バンザイ/静岡、岡山自民勝利/VTR 野中広務/自民党候補者インタビュー/郵政3事業民営化/CM/自民党の派閥解消をめぐって/CM/開票状況/改革の方向めぐって	⑦⑧	60:05
	2:00:00			

テレビ朝日系朝日放送

「選挙ステーション2001」

・CGを駆使して「オペラ座の怪人」風で作成したオープニング、ドラマ仕立ての特集(S5、S13)と、この番組では選挙報道の娯楽化が顕著である。

・<小泉映像>は番組前半で選挙戦を中心に、後半では特集VTRに頻繁にみられる。番組開始から(S2)、遊説先で大勢の人びとに囲まれ、走り去る黒塗りの乗用車から手を振る小泉首相がでてくる。各地の選挙戦でも歓迎する人びとをハイアングルで捉えた映像と演説する小泉首相のCUが交互にでる。さらに、声を張り上げる小泉の演説の一部が現場音とともに入り、「キャーキャー」と歓声をあげる若い女性や深くうなづく高齢女性などのCU映像が時々挿入される。自民党候補の事務所に貼られた小泉ポスターは他局に比べ少ない。

・オープニングに登場する「怪人」を擬した小泉首相は他党の党首たちに比べて颯爽としていて、目がキラリと光ったり、手からビームを発射するなどカッコよく作られている。ドラマ仕立ての特集VTR(S5)でも、小泉首相を中心にすえて自民党内の確執をドラマ化しているため、橋本龍太郎をイメージさせる悪役政治家に立ち向かう“正義の味方”小泉、といったような二項対立の図式がみられる。この図式を強調するのが野太い男性の声によるナレーション、挿入されるテクノポップ調のBGMである。

・有権者の声を生で伝える「街の声」がまったくないのも、この番組の特徴である。ビルの谷間を埋め尽くすような大勢の人を撮った映像が小泉人気を表現する手立てとして使われている一方で、個々の市民が何を考え、選挙結果をどう受け止めるかについて発言する機会を用意していない。市民を「マス」(群集)と捉えるこの構図は、現実に行進する開票速報に娯楽化した<小泉映像>を織り交ぜ、

すべてを“エンタテインメント化”してしまいう番組構成の一環をなしている。ちなみに、番組が市民の声を代弁しているとでもいうように、「痛みの果て」という大きな字のテロップの下に、小さく「我々もお忘れなく」と書いてある。また選挙のデータを分析する場面などでは、背景をCGの帆船に模して「選挙民の乗る船」と紹介している。

<小泉映像>の具体的内容

[S1] ⑧CGによる「オペラ座の怪人」風オープニングで指揮棒を振る小泉人形。

[S2] ③選挙カーの上で演説する小泉首相のLS(遠景)／④歓声のなか、走り去る黒塗りの乗用車の窓から手を振る首相／⑧画面下、獲得議席数の前に小泉イメージの人の顔、他の党首に似せた人形の顔も並ぶ。

[S3] ⑧獲得数を表す小泉人形([S2]と同)。

[S4] ①景山事務所にある激励の毛筆書の1枚に写真入りで小泉純一郎の号／⑧獲得議席数の小泉人形([S2]と同じ)。

[S5] ①選挙カーの側面に小泉の写真入りポスター／③神戸でマイクを手に演説する首相「小泉内閣の方針に反するようなことをしたら、私の方から自民党をぶち壊します」。テロップ「1万5千人の聴衆」→ドラマ仕立ての想像映像になり暗い部屋で画面を見る橋本龍太郎風人物の後姿に、音声とテロップで「この人気は絶対利用しなければ」／③ビルの谷間を埋め尽くす人びとの中、選挙カーの上でマイクを握る首相をLSからCU。男ナレ「改革断行の政治的エネルギーを、大衆の情念をかきたてて汲み出そうとする小泉戦略」/新幹線で移動中のミネラルウォーターを飲む小泉CU／③京都遊説中の首相CU、「選挙が終わったら小泉をつぶすという話が一部にあります」という。その音声が続くなかで、隣に立ち汗を拭う野中の顔を超CU／③四日市で藤岡候補を応援する首相BSにテロップ「この風みてると、すごい風だなと思う」。続いて想像場面となり橋本風の男性が扇子を使

2001年7月29日(日)テレビ朝日系19:55～参議選開票特別番組「選挙ステーション2001」

	時刻		内容(「」内はテロップを引用、インタビュー=イ)	小泉映像	時間量
1	19:55:00	オープニング東京スタジオ(S)	タイトル「オペラ座の変人」CG画面の人形劇で各政党登場(55秒)/タイトル「選挙ステーション2001」渡辺真理、小宮悦子、久米宏、渡辺宣嗣キャスター、CG背景/中継沖縄など締め切り寸前各地の投票率/CG背景上を移動してスタジオ入り	⑧	5:00
2	20:00:00	東京S+VTR	ANN出口調査/中継イ山崎幹事長/中継イ熊谷民主党幹事長代理/「非拘束名簿式」解説とその選挙戦VTR 舛添要一・自など16人の候補者/中継当確イ舛添要一、田嶋陽子・社/開票速報/VTR 大橋巨泉街頭演説/CM/出口調査結果	③④⑧	15:00
3	20:15:00	世界水泳	400メートル個人メドレー決勝、女子400メートルメドレー決勝	⑧	45:00
4	21:00:00	東京S	当選者速報/中継選挙事務所で万歳をする羽田雄一郎・民、大野つや子・自、景山俊太郎・自、大仁田厚・自/ゲスト紹介: 矢野純也・政治評論家、田原総一郎、福岡政行	①⑧	5:26
5	21:05:26	特集VTR(ドラマ仕立て)	神戸で選挙演説をする小泉と集まった人びと/暗い部屋で小泉映像を見る橋本竜太郎風の男性の想像映像/4月の総裁選映像/三重で遊説中の小泉と人びと/扇子片手の想像映像/岩手で遊説の小沢党首/喫煙の想像映像/岩手で遊説する小泉と候補者/驚きたばこを落とす想像映像	①③④⑦⑧	3:49
6	21:09:15	東京S+VTR	中継イ大橋巨泉・民、石原伸晃・自/CM/当確の訂正とお詫び/中継討論巨泉対舛添(左右分割画面)/スタジオゲストコメント/VTRイ小泉/CM	⑦⑧	16:04
7	21:25:19	大阪S+VTR	タイトル「選挙ステーションABC」岡元昇、堀江政生、葛西寛子キャスター/当確紹介とVTR 選挙戦、辻泰弘・民、山下英利、西田吉宏、谷川秀善、鴻池祥肇・自/VTR 世耕事務所万歳/CM/投票率/東大阪アリーナ開票作業/CM/中継イ世耕陣営岸本光造、西田陣営/出口調査、CG背景(有権者乗船の帆船風)/「風」に乗れなかった小泉顕雄・自/接戦の京都松井孝治・民、山下よしき・共/CM/開票結果	③⑧	32:53
8	21:58:12	東京S	中継イ辻本清美・社/CM/中継イ塩川財務大臣/中継塩川対辻本討論(4分間)	⑧	12:30
9	22:10:42	大阪S	開票速報/CM/CG背景で選挙分析「自民最弱区」など	⑧	6:35
10	22:17:17	東京S	中継イ釜本邦茂・自(サッカー韓国共同開催と靖国参拝問題)	⑧	2:04
11	22:19:21	大阪S+VTR	中継イ世耕邦成・自/開票速報/VTR 鴻池祥肇・自事務所で万歳/CM/開票速報/CM/開票速報	①⑧	10:16
12	22:29:37	東京S	中継イ辻本(久米と分割画面)/中継イ鈴木宗男・自(分割画面)	⑧	04:11
13	22:33:48	特集VTR(ドラマ仕立て)	VTR「痛みの果て」選挙で圧勝の小泉と抵抗勢力の今後/CM/VTR「政局シミュレーション」ゲストの福岡が選挙後の自民党政治はどう展開するかシナリオを作り、解散までの予測をドラマ化した映像(3分55秒)/CM	①⑦⑧	08:36
14	22:42:24	東京S	中継イ自民党本部の小泉CU、久米、田原、矢野分割画面/中継各党イ鳩山由紀夫・民、青木幹雄・自、神崎武法・公、菅直人・民、扇千景・保守、土井たか子・社民(一部で分割画面)/CM	⑤⑧	29:27
15	23:11:51	大阪S(終了)	開票速報/中継松井孝治事務所、山下芳生、辻泰弘・民、鴻池祥肇・自、北岡秀二・自/各党議席数/CM/開票速報	①⑦⑧	12:45
16	23:24:36 23:27:55	東京S+VTR	中継イ麻生(CU)/CG背景のスタジオ/VTR 党本部で候補者リストを指差し、Vサインの小泉(29秒)/久米、田原コメント/終了	⑦⑧	3:19

いながら「純ちゃんがんばるなァ、こっちは左団扇で票をもらおうとするか」と言う／③岩手で玉沢候補を応援する首相BSからCU、音声「私と（玉沢は）20年来常に一緒に政治行動をしてきた」→想像映像で橋本風の男性が「あれ！玉沢氏は森派だった」と気づき、驚いてたばこを落とす／④選挙遊説に集まった人びとが小泉首相に握手を求め、次々に手を出す。若い女性、高齢女性各2人のCU→小泉の顔の汗を自分のハンカチで拭いてあげる女性／④手に手に日の丸の小旗を振る人びと→高齢男性のCU／⑦4月の自民党総裁選で舞台中央に並ぶ首相。隣の橋本等幹部とともに一斉に拳を突き上げ「ガンバロー」と言う。男ナレ「…自民党が選挙に勝っても、小泉改革に抵抗するであろう橋本派を増やすことになる…」／⑧獲得議席数の小泉人形。

[S6] ⑦選挙当日午前11時カジュアルな青いシャツ姿で歩きながらインタビューに答える小泉のCUで、「自民党がいいねと君が言ったから、29日は投票に行こう」（20秒）／⑧獲得議席数の小泉人形（[S2]と同じ）。

[S7] ③西田、谷川、鴻池各候補の応援演説する首相。片手にマイク、候補者の手をとるBS／⑧議席数の小泉人形（[S2]と同じ）。

[S8] ⑧同上

[S9] ⑧同上

[S10] ⑧同上

[S11] ①鴻池事務所のポスター／⑧獲得議席数の小泉人形（[S2]と同じ）。

[S12] ⑧獲得議席数の小泉人形。

[S13-1] ①ビルの外壁にかかる巨大な小泉ポスター（垂れ幕）。⑦小泉首相の笑顔CU→想像映像（靖国参拝に向かう男性の後姿）→野中、亀井両氏の思案顔のCUに男ナレ「抵抗勢力はどう出るのか」。官邸内を歩く小泉首相のCU→想像映像（会議室のドアのノブを回す手のCU、男ナレ「小泉の次の一手は」）→①ビル壁面の巨大ポスターの小泉首相の顔CU。

[S13-2] 小宮「政局はどう動くのか福岡先生が大胆に占いました」⑦想像映像（テレビ画面に小泉の顔CU、ホテルでそれを見る顔のわからない橋本派の数人→男性の靴CUに男ナレ「…苛立ちを隠せなかった」→車を降り靖国参拝に向かう男性の後ろ姿に男ナレ「8月15日予定通り靖国神社に参拝した。アジアの国々は猛反発…」→安倍官房副長官と小泉BSに音声で「ちゃんと話せば分かるんだと書いておいてくれ」）／⑦4月の総裁選で「ガンバロー」と拳を突き上げる首相のBS→次々に握手し挨拶をかわす首相の横顔CUに男ナレ「9月末の総裁選橋本派は対立候補を立てなかった」→①ビルの巨大ポスターの小泉の目と鼻に超CU。それに街行く人びとの映像がかぶる。男ナレ「聖域なき構造改革が始まった…痛みとはすなわち貧富の差が増すということだった」／⑧小泉の顔写真入りメールマガジンの画面に男ナレ「小泉は繰り返し理解を求めたが支持率は50%台に落ちていた」／⑦官邸内で手を上げ軽く会釈する首相のCU→想像映像（鳩山党首CU「あなたがその気になれば民主党は支える用意がある」と電話→受話器を取る男性の手のCU→車中の小泉CUに男ナレ「小泉は笑ってはぐらかした」→皇太子紀出産を祝う日の丸の小旗ふる人びと→都知事が歩く映像→首相が歩く顔のCUに男ナレ「…ガタガタしたら共に立ちあがるとひそかに約束した盟友である。時が来た、解散だ」）／⑧議席数の小泉人形。

[S14] ⑤党本部で久米、田原のインタビューに答えるCU映像／⑧議席数の小泉人形。

[S15] ①鴻池事務所中継で「必勝小泉純一郎」の書、北岡事務所中継の背後の壁に貼ったポスター／⑧山下事務所の中継、テレビ画面のなかのインタビューに答える小泉首相／⑧獲得議席数の小泉人形。

[S16] ⑦自民党本部で候補者リストの前に立ち、指差す小泉首相→VサインをするCU／⑧獲得議席数の小泉人形。

TBS系毎日放送「票決ライブ2001」

・全体的な構成は選挙速報、選挙戦VTR、当確者のインタビュー、各党首のコメント、街の声、政治家による討論と幅広く、小泉人気をことさら特集VTRにして好意的に取り上げることもない。しかし「小泉映像」がキャスターの背後に設置された大型スクリーンに頻りに映し出されるなど、他の番組と同様に多用されている。あたかも参院選イコール小泉首相であるかのようである。東京スタジオでとくに顕著なこうしたやり方からは、小泉人気に対するタメエと本音が図らずも見えてしまった感がある。それとも、単純に、テレビが映像メディアであるという基本的な理解が制作者に不足しているのか。

・「小泉映像」でもっとも多いのは選挙遊説中のVTR映像(③)である。小泉首相がマイクを持ち、激しい口調で演説する姿を音声つきで、あるいは音声を入れずにCUし、またスタジオの大型スクリーンに大きく映しだしている。「小泉映像」は背景的にも常に使用されており、大阪スタジオ(毎日放送)では小型の液晶画面に、東京スタジオではパネル内に映される。

実写の映像以外にも、大阪のスタジオでは薄茶色の獅子像を置き、その顔を小泉風に擬人化している。また、自民党候補者の当確がでる度に、選挙戦中のポスターの小泉首相がでてくる。選挙事務所の壁に貼られた小泉首相ひとりの写真と候補者と並ぶものがある。

・TBSではこの選挙の自民党優勢の状況を「小泉の風」と表現している。特集VTRにもこのタイトルが使われているが、大阪スタジオでは「小泉の風～真紀子流応援」のみで、首都圏で放送した小泉の登場する「～人気は本物か」は放送されない。また、当確の自民党議員の選挙戦では、「風」の主人公の小泉が候補者と握手をする手のCU映像をしばし

ば挿入し「風」を強調している。しかしなぜ「風」が吹いたのかについての分析はない。

・選挙権を行使する側の市民の意見を取材する「街の声」が東京、大阪、京都で、また大阪スタジオではお初天神からの中継もある。選挙以外にも高速道路設置の是非についての市民への取材や、雇用問題についての建設現場の若い作業員数名へのインタビューもある。

・「小泉映像」に比較して、野党の党首や幹事長の映像は極めて少ない。[S15]の場合、話し手の菅幹事長は始めと終わりこそクローズアップで登場するが、中間では音声のみになり「小泉映像」に切替えられる。音声で菅、映像で小泉とする意図は何だろうか。

「小泉映像」の具体的内容

[S 1] ①自民党本部ビルの窓を被うように小泉首相の顔の巨大ポスター／③スーツ、白手袋で街頭演説・音声あり／④日の丸の小旗を振る人びと→花束を片手に持ち声援に応える小泉首相。

[S 2] ③街頭で拳を突き上げ、マイクを持つ小泉首相／⑦党本部で舂添と握手するバストショット(BS)、自民党旗の前に立つ首相。

[S 3] ③選挙遊説中の笑顔のCU。「歌舞伎大好き、なかでも一番好きなのは勸進帳」笑いの現場音「ハハハ」→同じく右手を上げ下げしながら「♪はりばやばーしでってうのでしょ。これ」笑い声「ハハハ」と拍手の現場音→大仁田、小泉、舂添が手を繋ぎ、声をそろえて「ファイアー」と叫ぶ。

[S 4] ③大阪スタジオの後方にある小型液晶画面に遊説中の小泉映像／⑧大阪スタジオにある薄茶色の獅子像、顔が擬人化してあり小泉首相のイメージになっている。

[S 5] ②東京スタジオの巨大スクリーンに演説中の小泉首相と田中真紀子外相。画面前方に「小泉の風」の文字が入る。

[S 6] なし。

[S 7] 以下の映像の前に、男ナレーション「…小泉の風が心地良く感じられるそんなな

かで…」と言う。①吉川選挙事務所にはられた小泉首相のポスター／③鈴木候補の応援に来て、声援に応じて手を振る首相／③谷川候補と握手するふたりの手のCU→Z-outしてふたりのBS／⑧各候補者の事務所に貼られた候補者と握手する小泉首相のポスター。

[S 8] ⑧薄茶色獅子像。

[S 9] ⑦党本部で大仁田に公認証を渡す際に握手する→二人の手のCU。小泉首相「候補者が燃えないと有権者も燃えない」テロップもあり。2人で声をそろえ「ファイヤー」。テロップもある。

[S 10] なし。

[S 11] ③鈴木宗男・自のインタビュー映像の後半で、バックに小泉首相の選挙演説映像大画面30秒。

[S 12] なし。

[S 13] ⑧自民党党本部で当確をあらわす首相を擬人化したシシローマークとその紹介。

[S 14] ②大スクリーン、選挙演説をする小泉映像、「聖域なき構造改革」の文字あり／③選挙演説中の小泉／⑦官邸内の通路で歩きながらインタビューに応じている首相／⑦国会答弁、テロップ「特定財源見直し」／⑧薄茶色獅子像

[S 15] ⑥民主党本部でインタビューに応える菅幹事長「…善戦健闘という結果になっていくだろうと…」のCUから自民党本部で候補者リストの前に立つ小泉首相にZ-inしてCU。テロップは「民主党菅幹事長」。さらに音声では菅のインタビューが続くが、映像は当確者にマークを付け笑顔の小泉CU、横顔の小泉CU。音声で菅「…小泉さんの顔に仮面をかぶせただけで…」→候補者リストの前に立ち、手で「ピース」をする小泉BS、音声で菅の話→菅のCUでインタビューが続く（3分44秒の菅インタビューの内小泉映像は40秒）。

[S 16] ⑦スタジオ後方の小型画面に国会答弁中の小泉映像／⑤党本部で候補者リストの横に立つ映像／⑧新聞の写真切り抜き・選挙

遊説中の首相をとり囲む人の中に映っている女性が「お初天神街ライブ」に参加している。

[S 17] ⑤自民党本部からTBSのインタビューに応える小泉首相のCUと音声（7分）。「小泉与党過半数上回る」のテロップ。質問するキャスターの顔は左上の小さい分割画面に。

[S 18] ③小型画面に遊説中の小泉映像遠景／⑦[S17]の一部リピート／⑧薄茶色獅子像。

[S 19] ③白Yシャツ、白手袋で選挙演説中の小泉首相→日の丸の小旗を振る人びとを見下ろす映像／⑦官邸内を移動中の映像／⑦顔のCU映像に「改革なくして成長なし」と強い口調の音声がつく。テロップもあり。

[S 20] なし。

[S 21] ③元道路局長杓掛哲男の応援演説をする小泉首相「…杓掛さんも道路見直しに賛成しているのですよ」と音声とテロップで強調／⑦国会答弁中の映像「私の内閣の方針に反対する勢力、これはすべて抵抗勢力なのです」と言う。

[S 22] ②大阪「政治家トークバトル」スタジオのバックスクリーン・片手を上げ、マイクに向かう演説中の小泉首相CU、「自民勝利で政界再編は」の文字が画面下に薄赤色の白抜きで出る。繰り返しこの映像が同一セグメント内に登場する／⑦話している顔CU（場所など不明）／⑦小泉内閣組閣時の映像などが小型画面に背景的に映されている／⑧薄茶色獅子像の顔のCU。

[S 23] なし。

[S 24] ⑦自民党本部候補者リストの横に立つ小泉首相。

[S 25] ①グラフのバック右上に小さく顔が映る。→同じく左上に／③東京スタジオの政治家による討論の際、後にパネルが設置されている。政治家の姿とはほぼ同じ大きさで、街頭演説をしている首相の映像がこのパネルに映っている。話す人の映像には必ずこの小泉映像が見え隠れして映るという構成／⑦自民党本部候補者リストの横にいる小泉首相。

2001年7月29日(日)TBS系毎日放送19:59~参院選開票特別番組「票決ライブ2001」

S	時刻		内容 (「」内はテロップを引用、インタビュー=イ)	小泉映像	時間量
1	19:59:00	OP 東京 S	タイトル「票決ライブ2001」/筑紫哲也、田丸美寿々、松原耕ニキヤスター 「議席予測発表まであと60秒」	①③④	01:00
2	20:00:00	東京 S+ VTR	JNN 議席予測/中継自民、民主、公明、共産、保守党党本部、VTR 党首選挙戦/中継当 確イ大橋巨泉・民 VTR 選挙戦/CG 背景で草野満代アナ改選後の議席分布説明/中継当 確イ舛添要一・自 VTR 選挙戦/中継自民党本部 (舛添と握手する小泉首相)	③⑦	21:00
3	20:21:00	VTR	選挙遊説中の小泉首相 (ユーモラスな口調でマイクに向かう笑顔の映像) /CM	③	01:45
4	20:22:45	大阪 S (毎 日放送)	近畿徳島地域出口調査結果/橋本佐与子、角淳一、桂ざこば、なるみ、重里俊行・大産大、 石田英司・元社会部デスク/CM	③⑧	10:00
5	20:32:45	東京 S	中継イ塩川財務相/中継当確イ羽田雄一郎・民 (演説中の小泉と田中が横に並ぶ)	②	03:15
6	20:36:00	特集 VTR	「小泉の風〜真紀子流応援/CM/続き」	登場なし	06:00
7	20:42:00	東京 S+ VTR	中継イ塩川続き/ (小泉効果を問う) VTR 吉川真由美、鈴木正孝、谷川秀善選挙戦/CG 背景で小泉改革支持調査分析小林良彰・慶大 (谷川と握手する小泉の手 CU→Z-out 等) /CM	①③⑧	07:45
8	20:49:45	大阪 S+ VTR	(当確6名) 中継当確イ世耕広成・自/速報/VTR 街の声「私はコレで入れました」/ 中継・大阪お初天神市民15人に聞く/非拘束名簿式投票の解説/VTR「あの人は今」 大仁田厚、末広まきこ、大橋巨泉、田嶋陽子等/タレント候補一覧表/当確情報	⑧	25:10
9	21:14:55	東京 S+ VTR	開票速報/CG 背景で佐キヤスター比例区ベスト10/VTR 当確高祖憲治・自選挙戦/ VTR「扇のカナメ」保守党党首選挙戦に都知事応援/中継当確イ大仁田厚 VTR 選挙戦	⑦	13:40
10	21:28:35	大阪 S	当確情報/中継・当確イ谷川秀善・自、白浜一良・公/CM		08:13
11	21:36:48	東京 S	当確情報/中継イ・鈴木宗男・自 (背景に小泉選挙演説映像30秒) /CM	③	08:57
12	21:45:45	大阪 S	「政治家トークバトル」自3、民2、社1計6名関西地区出身議員の討論/CM		12:00
13	21:57:45	東京 S	中継与党3党党本部 (自民党本部では当選者に小泉マークをつける映像)	⑦⑧	2:00
14	21:59:45	大阪 S+ VTR	「小泉改革で道路は」道路特定財源説明/中継、VTR 高速道路が悲願の和歌山勝浦/CM 開通でさびれた島根県浜田市街の声/開票速報/中継当確イ山下英利、西田吉宏、鴻池 祥肇・自/中継自民党党本部/CM (聖域なき構造改革の文字入り大スクリーンの小泉)	②③⑦⑧	30:00
15	22:29:45	東京 S+ VTR	中継港区開票所/当確情報/中継当確イ松あきら・公/中継イ扇党首 VTR 選挙戦/中継 イ管幹事長「小泉与党過半数確保」/中継イ塩川/比例区当確情報/中継当確イ山口那 津男・公 (党本部で選挙状況を見守る小泉のCU、左上角に分割画面の菅がい等)	⑤	15:15
16	22:45:00	大阪 S	開票速報/中継兵庫県知事選当確イ井戸敏三/中継当確イ北岡秀二・自/中継自 民党本部「小泉自民党勝利へ」/「バトル」続き/中継お初天神「街の声」	⑦⑧	11:38
17	22:56:38	東京 S	中継イ小泉首相「小泉与党過半数上回る」(インタビューに応じるCU)	⑤	07:12
18	23:03:50	大阪 S	開票速報/CM/中継当確イ辻泰弘・民/中継お初天神「街の声」	③⑦⑧	10:55
19	23:14:45	特集 VTR	「小泉革命で国民にどんな痛みが？」建設業従事者にイ/雇用関連政府試算	③⑦	01:55
20	23:16:35	大阪 S	「自民勝利で失業は？」不良債権処理による失業のデータ/中継お初天神「街の 声」/開票速報/CM/「政治家トークバトル」続き		14:04
21	23:30:39	特集 VTR	「抵抗勢力!？」杵掛哲男元道路局長・自選挙戦/高祖憲治近畿郵政局長・自選 挙戦 (応援の小泉「杵掛さんも道路見直しに賛成しているのですよ」)	③⑦	02:51
22	23:33:30	大阪 S (終了)	政治家討論続き/開票速報/CM/討論続き「自民勝利で政界再編は」/CM/ バトル続き/CM/開票速報/中継当確イ荒井正吾・自/CM (大パネル映像)	②⑦⑧	36:40
23	0:10:10	ス ポ ー ツ N	今日のスポーツの結果/CM		11:45
24	0:21:55	ニュース	「参院選開票進む」小泉コメント紹介/開票速報/VTR街の声 (大阪) /CM	⑦	07:55
25	0:29:45	東京 S (2:00:00)	中継自民、保守党本部/開票速報/各党最終議席予測/スタジオ討論「小泉改革 の行方は」古賀前幹事長、渡辺喜美・自、中村敦夫・無、海江田万里・民、町村 信孝・自、篤信彦/開票速報/メールによる視聴者の声と山崎幹事長の応答中継 イ/中継イ神崎代表/CM/中継イ土井党首/中継イ渡辺恵美・自連/中継イ藤 井幹事長/投票率の伸び悩み分析/開票速報/CM/「景気と構造改革」討論続 き/中継イ志位委員長/無党派層の政党支持データ/中継与党3党開票センタ ー/CM/街の声 (東京) /メール紹介/「小泉改革の行方は」討論続き/CM /討論続き/CM/中継民主、共産、社民、自由党本部/CM	①③⑦	1:30:15

NHK「2001参院選」

・番組の全体的な構成は選挙速報とその分析、当確者共同インタビュー中継と選挙戦VTR、各党党首に聞く、特集VTR選挙戦からなる。そうした構成から<小泉映像>は他局に比べ少なくなっているが、特集VTRになると、やはり民放番組と同じような構成で小泉首相のクローズアップ(CU)映像が多用されている。

・特集VTRでは「小泉人気の影響」を選挙戦にみるという構成であるが、映像としては首相のポスターのCU、全国遊説で演説する小泉首相のCU、集まった人びとと握手する笑顔の首相などに加え、小泉グッズが頻繁にでてくる。運動員の着る小泉Tシャツや配布用の小泉ポスターなどが各地の選挙戦の紹介に登場する。

・有権者をひとりひとりの市民として捉え、その意見を伝える「街の声」がまったくない。有権者は首相の遊説先に集まった多数の人びとと集合的に捉えられており、その数の多さを強調するためにヘリ映像を使ったり、手に手に日の丸の小旗を振る「群れ」のような姿で映しだされている。

・セグメント14では民放番組の場合とちがい、小泉首相のコメントをまずキャスターが一部伝え、その後、首相のインタビューに移り、引き続き影山解説委員が各党党首に聞くという流れになっている。民主党以下自由党までの6党首のインタビューでは、一部で分割画面となり、左側に小泉首相、右側に他党の党首という映像になる。小泉首相のインタビュー映像をふくめ、38分の長いセグメントである。後半は分割画面で、他党の党首の発言に対し、首相が答える映像となっている。

・小泉人気にあやかった選挙という取り上げ方であるが、それについての局としての批判や、考え方などはまったく示されない。非拘束名簿式選挙についてのコメントも特にない。

<小泉映像>の具体的内容

[S1] ③応援演説をする小泉首相のCU。「多少の痛みは我慢してもらおう。その代わり、明日を少しでもよくしようという努力をするならば、必ずや日本は立ち上がります」という。

[S2] ⑧小泉グッズの映像→Z-inしてTシャツの“シシロー”と携帯ストラップの小泉人形をCU→小泉グッズを買う人びと→①ポスターをCU。テロップ「小泉人気の影響は？」

[S3]～[S10] なし。

[S11] ③選挙カーの上で手を振る小泉首相にZ-in→応援演説の首相CU、現場音なし。

[S12] ⑤山崎自民党幹事長がスタジオからの質問に答える際に小泉首相の顔がCUされる／小泉首相からカメラが横にパンすると、自民党幹部が並んでおり、その中の山崎に再びCU。(小泉首相の音声はないが、話している映像)

[S13] なし。

[S14] ①薄緑色の背景に小泉首相の正面写真(肩から上)。テロップ「小泉首相」／③手を挙げて人びとに答える首相のCU→日の丸の小旗を振る人びと→演説中の首相CU／④手を挙げて声援に応えながら歩く首相。現場音なし／⑤スタジオからの質問に答える小泉首相(正面のBS→横顔のCU→正面のBS)→スタジオを介して他党党首と意見交換(他党党首と分割画面あり)。テロップ「自民党小泉総裁」。

[S15] ③演説する小泉首相のCU。現場音なし。

[S16]～[S17] なし。

[S18] ⑦コメントする小泉首相([S14]の映像の一部)「予想以上に良かったですね…」／⑦自民党本部に入り、党員と次々と握手する首相→当確者掲示板の前でVサインする首相(Z-inして顔をCU)。現場音なし。

[S19]～[S20] なし。

2001年7月29日(日)NHK20:00～参院選開票特別番組「2001参院選」

	時刻		内容(「」内はテロップを引用 インタビュー=イ)	小泉映像	時間量
1	20:00:00	Opening	タイトル「2001参院選」各党党首選挙演説 VTR	③	1:20
2	20:01:20	東京スタジオ(S)	川端義明キャスター、島田敏男、正籙聡政治部記者 NHK30万人出口調査分析「小泉人気が影響は？」/速報	①⑧	18:44
3	20:20:04	大阪 S	タイトル「2001参院選関西開票速報」野村正育アナ、大治啓記者/中継当確イ世耕弘成・自/速報		9:56
4	20:30:00	東京 S	速報/当確金田勝年・自、世耕弘成・自/山崎幹事長イ		6:00
5	20:36:00	大阪 S+VTR	投票率/VTR 長居小学校投票所/各選挙区争点分析、VTR 選挙戦/速報		24:00
6	21:00:00	東京 S	速報/中継7党各本部/「与党過半数確保自民改選61超の勢い」/中継当確イ保坂三蔵・自		16:00
7	21:16:00	大阪 S	速報/中継当確イ白浜一良・公、谷川秀善・自、山下英利・自/中継兵庫県知事選当確イ井戸敏三・無		14:00
8	21:30:00	東京 S	速報/中継当確イ柏村武明・無、小川勝也・民、大橋巨泉・民、林芳正・自/与党各幹事長に聞く		15:00
9	21:45:00	大阪 S+VTR	速報/当確イ西田吉宏・自、山本香苗・公/VTR 兵庫選挙戦、兵庫知事選挙戦		15:00
10	22:00:00	東京 S	速報/安定多数68議席獲得/中継当確イ山本一太・自、吉田博美・自、山口那津男・公/野党4党に聞く		9:30
11	22:09:30	大阪 S+VTR	速報/中継当確イ辻康弘・民主/VTR 各選挙区選挙戦	③	20:30
12	22:30:00	東京 S	速報/当確イ和田洋子・民、西田吉宏・自、三浦一水・自/山崎幹事長に今後の予測を聞く/速報/中継当確イ松山政司・自、狩野安・自、緒方靖夫・共	⑤	12:00
13	22:42:00	大阪 S	速報/中継当確イ谷川秀善・自、白浜一良・公、辻泰弘・民/選挙区別状況		18:00
14	23:00:00	東京 S	速報/首相コメント紹介/解説委員が各党党首に聞く・小泉と分割画面あり/「自民勝利改選61議席確保」/党首に聞く続き	①③④⑤	45:00
15	23:45:00	大阪 S+VTR	速報/中継当確イ荒井正吾・自 VTR 選挙戦、松井孝治・民	③	15:00
16	0:00:00	東京 S	速報/中継当確イ羽田雄一郎・民、橋本聖子・自、田村公平・自/自民、民主、公明、共産党各幹事長に聞く		13:00
17	0:13:00	大阪 S+VTR	速報/中継当確イ山下英利・自、法雲俊邑・民/VTR 和歌山選挙戦および落選候補インタビュー		27:00
18	0:40:00	東京 S+VTR	速報/VTR 各党の反応(前出の一部リポート)/選挙協力、構造改革の見通し解説	⑦	15:00
19	0:55:00	スポーツ			3:00
20	0:58:00	天気予報			2:00
21	1:00:00	大阪 S+VTR	速報/中継当確イ荒井正吾・自/VTR 奈良選挙戦および関西地区当確7人落選4人インタビュー	③	40:00
22	1:40:00	東京 S+VTR	速報(全国)/VTR 当確イ西銘順志郎・自、平野達男・由、田嶋陽子・社/「どうなる構造改革」		20:00
23	2:00:00	東京 S	タイトル「列島ドキュメント」膳場貴子アナ、神志名泰裕解説委		2:50
24	2:02:50	特集 VTR	注目候補選挙戦外添要一・自、大橋巨泉・民	③	6:30
25	2:09:20	特集 VTR	各地の選挙戦神奈川「首相の弟小泉正也さん」も応援/北海道/島根/長崎	①③④⑧	11:55
26	2:21:15	東京 S	小泉人気が影響は? グラフで説明	⑧	2:55
27	2:24:10	特集 VTR	各地の選挙戦続き愛媛/沖縄/静岡/福岡/東京/愛知	①③⑧	5:45
28	2:29:55	東京 S	出口調査から自民党支持層、無党派層の動き		6:55
29	2:36:50	特集 VTR	各地の選挙戦続き岩手/大阪	①③④	24:11
30	3:01:01	東京 S	中継扇党首当選のバラをつける		1:55
31	3:03:00	特集 VTR	各地の選挙戦続き大分	①③④⑧	2:00
32	3:05:00	東京 S	今後の政治日程 「列島ドキュメント」終了 3:08:40		3:40

[S21] ③演説する小泉首相CU→観衆→候補者と並び観衆に手を振る首相(奈良)。現場音なし/③選挙カーの上で観衆に手を振る首相→演説するCU(京都)。現場音なし。

[S22]~[S23] なし。

[S24] ③舛添要一候補の応援に来た小泉首相に人びとが歓声をあげ拍手する鳥瞰映像→舛添とともに拳を振り上げる首相CU→首相の応援演説CU。「…(改革を)絶対進めていくからって(舛添に)言っといた」

[S25] 神奈川①事務所の窓に貼ってある首相のポスター(2枚)CU→小泉首相の写真に拍手を打ち、礼をする大勢の運動員→パンして額縁入りの小泉首相の写真をCU→電話で投票を呼びかける女性の後に小泉首相のポスター→候補者と並び人びとと握手する首相の弟/⑧候補者と一緒の小泉首相のポスターCU→男ナレ「全国を飛び回って地元入りできない小泉総理の代わりに、弟に応援を要請しました」/北海道①ポスターを貼り替える運動員→ポスターのCU→Z-inして小泉首相の顔をCU→④応援に来た首相が観衆と握手→③小泉首相のCU→日の丸を振る観衆→首相の演説。男ナレ「…小泉総理大臣の写真を入れて、より多くの無党派層を取り込もうとねらったのです…。首相「小泉内閣の進める改革を進める為に自民党はあるんです」「ありがとうございます。ありがとうございます」/鳥根⑧候補者が着ている小泉Tシャツの「シシロー」と小泉首相の写真の部分にCU。男ナレ「選挙戦では、小泉人気を当て込んだ票の取り込みも欠かせませんでした」。女性運動員「小泉内閣の一員として、小泉Tシャツを着て…」/長崎③観衆に手を振りながら歩く小泉首相→日の丸を持つ観衆→Z-outして会場全体を鳥瞰→演説する小泉首相のCU。男ナレ「選挙終盤には小泉総理大臣が長崎入りし、自らが進める構造改革について演説しました。しかし、干拓事業には触れませんでした」

[S26] ⑧スタジオのグラフや図の横に小泉首相の似顔絵(全身図)数秒。似顔絵の首相の顔をCU。

[S27] 愛媛①小泉首相の巨大ポスターの車を自転車で通過する民主党候補者→ポスターのCU/静岡③大勢の観衆を鳥瞰する映像→演説する小泉首相のCU。それにかぶって「ありがとう、ありがとう」と演説の現場音/⑧同じ選挙区の竹山候補が小泉首相と握手するポスターと鈴木候補が小泉首相と並ぶポスターのCU/福岡 候補者と一緒の小泉首相ポスターのCU→パンして、隣に貼ってある別の候補者の首相とのポスターをCU→ポスターの首相の顔をCU/東京①小泉首相の巨大ポスターにZ-in→ポスターの横で選挙運動をする候補者にZ-in→小泉首相のポスター。アナウンスする女性のCU→⑧小泉グッズを販売する候補者(携帯ストラップ、Tシャツ、ポスター等をCU)。インタビューに応える保坂候補「率直に言って、救世主ですよ」/愛知③選挙演説中の小泉首相→Z-inして①首相の巨大ポスター→③手を挙げる小泉首相と候補者→小泉首相の演説CU→候補者の手をとって掲げる首相→⑧運動員が着る小泉首相の写真入りTシャツのCU→①通行人に配る小泉ポスターのCU。

[S28] なし。

[S29] 岩手①数枚の小泉首相巨大ポスターが並ぶ/③候補者の手を挙げながら演説する小泉首相をCU→Z-outして、日の丸を振る大勢の観衆(ハイアングル)→④観衆に囲まれ握手をする小泉首相。

[S30] なし。

[S31] 空→T-downして大勢の観衆→④観衆に手を振りながら歩く小泉首相/③候補者の手を掲げ演説する小泉首相。男ナレ「ところが、小泉総理大臣の人気で情勢が大きく変わりました」/①事務所の外壁に貼ってある首相の巨大ポスターにZ-in→⑧小泉Tシャツを着る運動員→“シシロー”が描かれているポスターをCU。男ナレ「後藤さんの陣営では、小泉総理大臣のポスターを貼ったり、運動員がTシャツを着たりと、小泉人気を最大限に利用しました」。

[S32] なし。

インターネットサイト

「メディア・リテラシーの世界」(MLPJ)

更新—市民の視座から—

9/25日付で、ホームページ「メディア・リテラシーの世界 (Media Literacy Project in Japan = MLPJ)」の更新を行ったので、その内容を報告する。主要な更新箇所は、以下の通りである。

1 「子どもとメディア/市民とメディア」政策研究の関連サイト

(<http://www.mlpj.org/chci2001.html>)

この新規に開設したサイトは、「子どもとメディア/市民とメディア」政策をめぐる社会的な議論への理解を深めるためのリンク集である。リンク先は「政府機関」、「政党関係」、「市民組織」、「メディア関連組織」といった四つのセクター別のカテゴリーに分けている。

「政府機関」、「政党関係」では、政府機関/政党がインターネットを用いて公開している情報を調査した上で、リンクを構築している。できるかぎり、メディア政策に関連するサイトに直接リンクを展開しており、公開された情報への市民のアクセスが容易になるよう注意を払っている。例えば、総務省郵政事業庁(旧郵政省)のサイトで公開されている情報のなかからは、「放送分野における青少年とメディア・リテラシーに関する調査研究会」「青少年と放送に関する専門家会合」「青少年と放送に関する調査研究会」を選び、直接リンクを展開している。

「市民組織」のカテゴリーでは、メディア問題に関連する活動を展開している様々な市民組織のサイトを収集している。

「メディア関連組織」では、市民からの意見・議論に対するメディア側からのリアクション、メディア政策に対応するメディア関連組織の最新の動きをおさえるために役立つサイトを収集している。

以上、このリンク集を活用することで、市民が日本のメディア政策の中でどのような立場に位置付けられているのか、様々なセクターの「いま」の取り組みについて把握することが可能となる。

2 「参考文献リスト」

(<http://www.mlpj.org/book2.html>)

『メディア・リテラシーの現在と未来』(鈴木みどり編、世界思想社)の刊行を機に、同書資料編に収録されている「メディア・リテラシーを学ぶための56冊」をそのままサイトにも掲載することにした。最新の参考文献をリストアップしている他に、英語による書籍も10冊あげている。

3 「FCTホームページ」

(<http://www.mlpj.org/fct/index.html>)

本誌74号の目次と特集の抜粋記事を追加掲載した。なお、今後は過去に出版したGazette誌のバックナンバーを掲載していくことも検討中である。

4 「FCT第2回メディア・リテラシー・ファシリテーター研修セミナー」について

(<http://www.mlpj.org/kngw2001.html>)

2001年12月21日から23日まで神奈川県立かながわ女性センターにて開催が決まった「FCT第2回メディア・リテラシー・ファシリテーター研修セミナー」の概要を掲載し、インターネットによる申し込みができるようにした。すでに問合せ、申し込みが相次いでいる。(篠塚 公)

高槻市でメディア・リテラシー入門連続講座を2001年7月～10月に実現

今回は、FCT主催の第1回メディア・リテラシー・ファシリテーター研修セミナー(2000年8月)に参加した高槻市立富田青少年交流センター(大阪府)の岡井寿美代が、その後の展開について報告する。

岡井が働く高槻市立富田青少年交流センター(以下センター)は、高槻市教育委員会社会教育部に属する。いわゆる社会教育施設であるが、施設名がしめすとおり、主に青少年を対象に事業を展開している。日常的には、小学生が放課後や学校が休みの時に、生活を充実できるような空間作りをはじめ、学生ボランティアによる多様な遊びの場の設定も行なっている。

●メディア・リテラシーと出会ってから

センターに集まってくる子どもたちと毎日生活していると、「メディアと子ども」という関係がますます気になってきていた。というのも、今に始まったわけではないが、子どもたちの世界では、テレビやマンガ、コンピュータゲームのキャラクター商品やグッズが放課後や休日に遊ぶ子どもたちの関係にかなりの影響力を持っているように感じていたからだ。近年では、ミニ四駆に始まり、ポケモンやデジモン、遊戯王カードに、ベイブレード。そして、常に新しいタイプのポケットコンピュータゲームといった具合に、アニメの人気と共に子どもたちが持つ「遊び道具」は、目まぐるしく変化してくる。保護者が買い与えているものもあれば、子ども自身がお金を持って買ってくる場合もある。

やがて、キャラクター商品などの「もの」

を持つ子どもたちはグループ化し、持っていない子どもたちとは交わって遊ばなくなる。持っている子どもが良くて、持っていない子どもはダメだという価値観が子どもの中で生まれ始める。勿論、すべての子どもというわけではないが。

こういった状況から、メディアを理解することが、この社会を生き抜いていくことであり「メディアと私・私たち」の関係をどうとらえ、読み解き、自分はどう生きるのかということが非常に重要になると考えた。

●ファシリテーター研修セミナーに参加して

本来なら、すぐにでも子どもたちと「メディア・リテラシー」の学びを始めたところだが、まずは、自分も含め、職員やボランティアなどの子どもとかかわるおとなが、メディア・リテラシーについて理解を深めていく必要があった。

FCT研修セミナーに参加後、まずは、職場で『Study Guide(スタディガイド)メディア・リテラシー』(リベルタ出版)を使い、学習会をもった。2001年度には、必ず学びの場の設定をしたいという思いで、職員会議も設定した。予算要求は新規事業ということもあって、市長決裁を受けることになったが、どうにか、予算がついた。最低条件をクリアして、講座の実現へと進んでいく。

ソフト面では、立命館大学メディア・リテラシー研究プロジェクトの全面協力により、『スタディガイド』の手順にそって系統的に学べる内容となった。ファシリテーターは、FCTの新開さんと研究プロジェクトのメン

バーを中心に担当していただけることとなり、
ようやく、参加者の募集にこぎつけた。

●情報化社会を生きぬく若い人たちのための 「メディア・リテラシー入門講座」

第1回 7月13日

「メディア」を学ぶのはたのしい！！

私とメディア 私たちとメディア

第2回 8月31日

ニュースは世の中のことを伝える“かかみ”
なの？

メディアが構成する子ども・若い人たち

テキスト：参院選開票特別番組

第3回 9月7日

ニュースが伝える「現実」は？！

メディアが構成する子ども・若い人々

テキスト：参院選開票特別番組

第4回 9月21日

テレビコマーシャルにも言葉と文法がある！？

映像言語／音声言語が伝えるもの

テキスト：高齢者CM

第5回 10月5日

テレビドラマを読んでみよう！！

ドラマと私たち

テキスト：ビューティフルライフ

第6回 10月19日

「メディア・リテラシー」そして、これから

テキスト：同時多発テロ事件報道

●参加者は若い人たち！？

募集定員は30名。講座のタイトルどおり若い人たちに是非とも参加してもらいたくて、16歳から35歳の人を優先にしたが、申し込んできた人は、大学生から自称35歳の人まで、年齢も、職業もバラバラだった。特徴的なことはセンター周辺にある地域の中学校の職員や保育所の保育士や保護者、CAPのスペシャ

リストや地元出身の学生ボランティアなど、地域の教育を考えている人たちが集まってきたことだ。また、「メディア・リテラシーの世界」のホームページをみて、系統的に学びたいという思いから、片道2時間かけて参加している人など、遠方からくる人も少なくない。

いざ、講座が始まると、この年齢・職業の違いや経験の違いが良かった。毎回、書いてもらったアンケートには、「子育てに夢中になっていた私がく私のメディア史」と言う字を見て、ハッとしました。自分の幼い頃のことを知らない間にどこかに消えていたのです。自分のことを考える時間、思い出す時間、とても楽しくすごすことができました」「やっぱり、いろんな読みとり方、気づきがあるもんだ。いい対話の中で、新たな気づきの中で、自分の考えがより整理されていく過程はいいですね」など、メディア・リテラシーの学びが自分と関わること、学ぶことの楽しさをみだしている意見が多くみられた。

講座の様子も教師や保護者、学生といった立場の人々が、対等な関係の中で学べるという、かつてない経験から、グループでの対話や発表についても活発で、「参加する」という意味においてはどの参加者も積極的だった。こういったことから、入門講座としては、参加者が「メディア・リテラシー」の入り口に立てたのではないかと思う。講座終了後の展開については、今回の参加者でグループを作り、『スタディガイド』を使った学習を緩やかにやっていく方向を考えている。そして、将来的には、子どもとともにメディア・リテラシーを学べる基盤づくりをめざしたい。

(岡井寿美代)

「非人間的」だった同時多発テロ事件報道

中野恵美子

「朝から何の映画？」前夜早く床についた私は、テロ事件を翌日のTVニュースで知った。職場に着くと、大半の人がこの事件をリアルタイムで見たと興奮して話している。テロを計画した人物は、晴れの日を選び、1機目のビルへの突入のあと、TVカメラが回っていることに確信をもって、2機目を突入させたに違いない。その一部始終を劇的な「テレビ向け」の画像として、被害国のメディアを使って、世界中に同時中継で配信させた。そしてあの日以来、私たちは何度あの映像を見ただろう。番組開始を知らせる冒頭の映像に、テロップの背景に、事実関係の説明の背景に…その多くは激突の瞬間を中心に様々なショットで編集され、なかにはBGMや効果音まで使われていたものもあった。

私にはあの映像はきわめて「非人間的なもの」に思えてならない。人間の姿がまったく見えない。それでいて実は、多数の人間がそのなかで死亡し、傷ついている。さらにそれが切り刻まれ編集されて、番組をよりセンセーショナルなものにするための素材として使われている。結果として、テロ犯にとっては格好の宣伝の場となった。

もうひとつ、何度も見せられた「非人間的な」映像に、けがをしている男性へのインタビューがある。粉塵をかぶり頭から血を流して、倒壊寸前の建物から脱出してきたところにテレビカメラが待ち構えている。突きつけられたマイクに向かって男性は「急に爆発が起こって何がなんだかわからない。ビルの中にはたくさん人がいる」と吐き出すようにしゃ

べる。男性は消防隊員に促されてその場を去っていく。

人は異常な体験をすると、一時的に神経が高ぶり、いわゆる「ハイ」の状態になることがある。そんな時に人から話しかけられれば、より興奮が高まり、多弁になることがある。交通事故などで、身体に強い衝撃を受けた場合、たとえ目に見える外傷はなくても、内蔵や脳の奥で内出血が起きている可能性がある。だから、事故の直後には安静を保つことがなにより重んぜられる。必要以上に興奮させると血圧の上昇やよけいな出血が起こる危険性もある。かの男性は年齢からして、心臓や高血圧などの疾患をもっている可能性も高い。まして彼は頭から血を流していたではないか。あの場面で救急車への行く手をはばんでマイクを突きつけるやり方は、とても非人間的なものに思えた。

こんな映像は国内の報道でも決して珍しいものではない。「絵」になる風景、臨場感あふれるコメントを求めて現場を歩くTVカメラは、その途上で大切なものを落としてしまっているように思える。報道する者には最低限、救急救命の基礎知識が必要だが、それ以前に、人命、人権を尊重するという人として、市民として当たり前の生き方を磨いていって欲しい。そしてそれを取材現場で存分に発揮してもらいたい。そうしたことが根幹にあれば、どうしたら世界に平和を実現できるのかという観点からの番組が、もっと作れるはずだと思う。

データバンク

[海外篇]

●特集・コミュニケーションするサイバー空間と仮想現実(Communicating Cyberspace and Virtual Reality), Media Development Vol. XLV111(2001年1月)、WACC。 <http://www.wacc.org.uk>

この特集号から以下の二つの論文を取り上げる。

・インターネットは電子アパルトヘイトなのか(Is the Internet a form of electronic apartheid?), Alfonso Gumucio-Dagron, development communication specialist.

Unescoによれば(2000/12)、世界でインターネットにアクセスできるのは全人口のわずか2%、そのうちの88%が先進国に集中する。北米は世界人口のわずか5%だが、インターネット人口では全世界の50%になる(98)。一方、南アジアの人口は20%強。インターネット・ユーザーは1%にも満たない。この現実をどうとらえるか。

インターネットはこれまでのどんな差別よりも、極端な差別を生む電子アパルトヘイトだと筆者は言う。電子民主主義社会の一員になるには、英語が不可欠と思われている。つまり、今のインターネットは英語が理解できる人々のツールでしかない。だが、世界には6500の言語が存在する。8.8億人に使用される北京語を筆頭に、スペイン語(3.2億人)、英語(3.2億人)と続く。問題は言語にとどまらない、と彼は言う。電話や電気、安全な飲料水すら確保できないスリランカやグアテマラの農村地域に、大量のコンピュータが導入されようとしている。誰もが同じハンバーガーを食べ、ボトルに入った同じ黒い水を飲む世界は想像するだけで、恐ろしい。しかし、それが流行というもので、現在のインターネットでは、様々な文化を表現する機会はない。ある文化は弱体化し、消え去ろうとしている。

かつて、衛星放送などのニューメディアは多様な情報を提供すると思われていたが、実際は社会

のひとつの見方を提示したに過ぎない。今、同じメディア企業がインターネットを掌握しようとしている。多様な声、多様な文化が等しく尊敬され、大事にされる世界が民主主義社会の理想ならば、インターネットが単なるビジネスと宣伝のツールとして発展する動きを止め、それを民主主義と開発のため、参加と文化的アイデンティのためのツールとして発展させるべきではないか、と結んでいる。

・不死の人・それは人間、あるいは、デジタル化したヒトなのか? (Nurslings of immortality: Being human or being digital?), Philip Lee, the editor.

かつて、富裕な人々はその時代に生きた証として、肖像画や書物に自己の記録を残した。テクノロジーの発達と共に、メディアも写真、映画、ビデオと変わり、今や、あらゆるものがデジタル化される。人体も例外ではない。コンピュータ上で永遠に生き続ける人もいる。一体、私たちの「過去」「現在」の概念はどう変化していくのか。私たちは「現実」と「仮想現実」の間をどのように行き来するのか、と筆者は問う。

筆者はここで、二つの大プロジェクトを取り上げる。一つは人間のDNAの塩基配列を解析する国際プロジェクト、ヒト・ゲノム計画(HGP)。遺伝子病の解明が期待される反面、研究結果がヒトクローン個体の作成に関係し、個人、社会のあり方に影響を与えると懸念されている。もう一つはアメリカのVisible Human Project(VHP)で、男女の解剖結果をデータベース上で開示する。男性は93年に処刑された死刑囚で、死後、華氏-160度に凍結され、CTを用い、1,871箇所の断層像が撮影された。つまり、彼は、15バイトのデータベース上に蘇生したというわけだ。21世紀後半には、どんな人物のデジタル複製もできるだろう。

一体、私たちは、人類の歴史や人間が持つ独自性をどのようにとらえ直したらいいのか。デジタル化した永遠とどのように、向き合ったらいいのか、と筆者は疑問を投げかける。

(高橋恭子)

データバンク

【国内篇】

●メディア・リテラシーの現在と未来、鈴木みどり編、世界思想社、2001年刊。

本書は日本のメディア・リテラシー活動をグローバルな視野で位置づけ、今後の展開を展望しようとする問題意識で編集されている。12人の執筆者と翻訳者による3部構成で、目次は次のようになっている。

I 理論

第1章 日本におけるメディア・リテラシーの展開～メディア社会のデモクラシーへ向けて 鈴木みどり／第2章 『メディアを教える』レン・マスターマン、宮崎寿子解説・抄訳／第3章 デカルト、ジュール・フェリー、CLEMIの国の「メディアについての教育」ジュヌヴィエーヴ・ジャッキーノードローネー（仲間雄三訳）

II 学びの実践

第1章 ジャーナリズムとメディア・リテラシー 鈴木みどり／第2章 ジェンダーとメディア～雑誌の誌面を解説する 井上輝子／第3章 シドニー・オリンピック「南北合同行進」の伝えられ方／視られ方 阿部潔／第4章 オルタナティブ・メディアをつくる 鎌中ひとみ／第5章 参加と対話で学ぶメディア・リテラシー～生涯学習講座から 西村寿子

III 展望

第1章 インターネット上で展開するメディア・リテラシー活動～Mnetの分析から 篠塚公／第2章 メディア・リテラシー教育と新しいコンピュータ教育 ニール・アンダーセン（伊藤晶子訳）／第3章 メディア・リテラシーの担い手たちとそのパートナーシップの構築～カナダの取り組みに見る 鈴木みどり

資料編（諸文書、文献リスト、用語解説）

第1部第1章は、世界の動きと軌を一にして始まった1980年代以降の日本におけるメディア・リテラシーの展開について、市民セクター・放送事業者・放送行政の各領域の動向と合わせて時系列に整理・分析して21世紀の課題を探ろうとしている。

第2章は、メディア・リテラシーを学ぶ者にとって必読書とされているレン・マスターマンの著書『メディアを教える』の抄訳と解説である。大学の授業や市民講座で学ぶ「目標、8つの基本概念、分析モデル、学びの場の作り方」などの理論的背景となる部分であり、それを日本語で読むことができるようになった意義は大きい。

第3章は、フランスにおけるメディア・リテラシー教育の取り組みを取り上げ紹介している。フランスでメディア・リテラシー教育の中心を担ってきたCLEMIの理念、学校・学校外の取り組み・独立行政委員会と放送事業者の動きなど日本ではほとんど知られていない点が多く語られている。

第2部では、日本におけるさまざまな実践が多角的に取り上げられており、メディア・リテラシー研究の学際性を概観できる。第1章では、編者の大学での授業を実践例としてとりあげ、メディア・リテラシーとジャーナリズムの関係をどう学ぶか、また、理論と実践の統合のあり方を示している。第2章では雑誌を取り上げ、ジェンダーとメディアについて学ぶ分析方法を提示する。第3章はメディア・リテラシーの研究で重要な領域のひとつであるオーディアンスに焦点をあわせ、グループ・インタビューによる分析を行っており、多くの示唆に富んでいる。第4章では、フリーランスの制作者である筆者が日本型パブリック・アクセスの可能性を探ろうとしている。第5章は、市民講座の実践を踏まえて系統的な学びの場の構築と展開、参加者の学びの推移について整理・分析している。

第3部は、カナダに焦点を絞り、その経験から

今後の取り組みを展望しようとしている。第1章は、インターネット上でメディア・リテラシー活動を展開する市民組織「メディア・アウェアネス・ネットワーク」(Mnet)を取り上げ、そのサイトを分析する。第2章は、カナダのメディア教師の中心的存在である筆者が、コンピューター・テクノロジーが教育に及ぼす影響とメディア・リテラシーの観点から学ぶ意味について論じている。第3章は、カナダにおけるメディア教師や市民組織(NPO)とシティテレビなどの放送事業者によるラディカルな取り組みと、さらにその中で生み出される発想豊かな新しい教材を取り上げ、それに分析を加えつつメディア・リテラシーの現在と未来を論じている。(N)

●日本映画史100年、四方田犬彦著、集英社新書、2000年刊。

本書の構成は以下の通り。「前書」「日本映画の特徴について」「第1章 活動写真1896～1918」「第2章 無声映画の成熟1917～30」「第3章 最初の黄金時代1927～40」「第4章 戦時下の日本映画」「第5章 植民地・占領地における映画制作」「第6章 アメリカ占領下の日本映画1945～52」「第7章 第二の全盛時代へ1952～60」「第8章 騒々しくも、ゆるやかな下降1961～70」「第9章 衰退と停滞の日々1971～80」「スタジオシステムの解体1981～90」「第11章 インディーズの全盛へ1991～2000」。

大学で映画史の教鞭をとり、映画以外にも文学や漫画などの批評家として知られている著者が、「専門家ではない一般の読者のために」日本映画の歩みをまとめた新書。著者が「映画の歴史は決して名作の歴史ではない」と、前書の冒頭で述べているように、映画を取り巻く社会や政治、文化、そしてサイレントからトーキーへ、モノクロからカラーへ、フィルムからビデオへとといった映画制作にまつわるテクノロジーの歴史をふまえた上で

の、日本映画史100年の概説書である。

著者は、大衆読み物の歴史や、歌舞伎・新劇を含む演劇、浄瑠璃に起源を持つ口承芸としての弁士などを挙げ、日本映画が日本の伝統文化の延長と影響のうえに制作されてきたことを指摘しながら、日本映画の特徴は、それとともに他者である外国映画と対峙しつつ「文化的ハイブリッド」を作り上げようとする意志だったと述べている。

章立てと時代区分は著者の視点によるものであるが、第5章では、台湾・韓国・中国の植民地・占領地時代の映画制作と、その後の各国の映画産業への影響、日本との関係について語られており、アジアを巻き込んだ日本映画の位置を概観することができる。(M)

●彷徨えるナショナリズム—オリエンタリズム／ジャパン／グローバリゼーション—、阿部潔著、世界思想社、2001年刊。

本書は、著者が個人的な体験を契機に抱くようになった「ナショナルなもの」への違和感を出発点にして、現代日本における「ナショナルなもの」について論じたものである。

著者は、「ナショナルなもの」は私たちが生きる日常空間に空気のように充満しており、ごく当たり前のことと看做されている日常の事柄のなかに潜んでいるとして、各章で具体的な事例を取り上げながら、そこに潜む「ナショナルなもの」を明らかにする。

第1章では、オリンピックにおける「日本らしさ」や石原都知事の「三国人」発言をはじめとする90年代の「ナショナルなもの」が、第2章では、「科学・技術立国」や「日本文化論／日本人論」における「ナショナルなもの」が取り上げられている。第3章では、脱亜入欧イデオロギーに基づいた同一化すべきアメリカと差異化すべきアジアという二つの「他者」と「自己＝日本」の関係性が論じられ、第4章では同一化すべき西洋と日本

との関係から見出せる「ナショナルなもの」、第5章では差異化すべきアジアと日本の関係から見出せる「ナショナルなもの」について、それぞれ述べられる。第6章では、NHKの『プロジェクトX 挑戦者たち』、北野映画、シドニー・オリンピックなどに共通してみられるノスタルジックでキッチュな「日本らしさ」が指摘される。

著者は、これら各章で取り上げられている事例に潜む「ナショナルなもの」は、不可避免的に暴力や抑圧を伴っており、「他者」を排除していると述べる。最後に、こうした現代の「ナショナルなもの」自体を根本から問い直し、国家構成員＝国民ではなく社会構成員＝市民によって新たな公＝パブリックを築き上げること、つまり「公」を共にするのではなく「共」から立ち上がる公として「公共的なもの」を構想することが、「ナショナルなもの」を超えてゆくためのひとつの方策であると結ぶ。(J)

●「特集Ⅰ IT革命と社会参加」、『ノーマライゼーション』、財団法人日本障害者リハビリテーション協会、2001年5月号。

同誌は障害者の社会への完全参加と平等をめざして82年から毎月発行されている。

園部英夫は、IT基本法が討議された「IT国会」では、9人の参考人のうち2人が障害者だったことを示し、IT社会実現のためには障害者を含めた情報格差の是正が大きなテーマであると述べる。また情報アクセス権は基本的人権であり、徹底した「情報バリアフリー」の必要性を強調している。

「IT革命と社会参加」の具体例として、聴覚障害者の間に携帯電話の文字通信の普及が著しいことは知られているが、知的障害者にとっても文字通信はパソコンよりやさしく、手に入りやすいことから利用者が増加していること、精神障害者の間では情報交換などの場としてパソコン通信が

活用されていることなどが報告されている。またLDといわれる学習障害の人たちは、インターネット上で「LDフォーラム」を発足させている。岐阜県の「福祉メディアステーション」の試み、群馬県のパソコンボランティア（通称パソボラ）の取り組みなどが紹介されている。

なかでも視覚障害のある人の国際標準規格の録音図書システム「デジタル音声情報システム」は、マルチメディア対応を進めることによってさまざまな障害をもつ人や高齢者にとって有効な情報ツールとなることが期待され、注目される。(E)

●「参議院選2001 政党CMと考査の攻防」、球磨祐次、『放送レポート』、No.172、2001年9/10月号。

政党CMは、公職選挙法で「そのまま放送しなければならない」と定められている政見放送と異なり、一般のCM同様日本民間放送連盟の放送基準に照らした各局の考査を経なければならない。今回の参議院選挙では空前の「政党CM」合戦が展開されたが、一部のCMが改稿を求められ、それに応じなかった政党のCMが放送できなくなったり、改稿した新版まで拒否されるなどの事態が生じた。その結果「テレビ局の検定」「政党の考えに有権者が自由に触れることが出来ないのは民主主義に対する重大な挑戦」との声があがるなど、考査を巡ってかつてなく激しい攻防が演じられた。

政見放送と経歴放送以外の選挙運動のための放送は公職選挙法で禁じられているが、政党CMは「政党名や政策を訴える日常的な政治活動」とみなされ、選挙期間中も放送できる。政党はそれをよいことに選挙に向けてCMを集中させる。しかし、選挙の時期だけしか放送されない政党CMは選挙運動のためでしかなく、「日常的な政治活動」とは思われない。筆者は、そうであるなら公職選挙法を改正して、政党CMも「選挙運動のための放送」として位置付け、もっと自由な表現の場を

政党に提供するべきとしている。

また政党CMの審査にあたって、商品・サービスCMと同様の放送基準が適用され、他党の批判や断定的な政治主張ができなくなるのでは意味がないとも述べる。ここでは放送基準に過剰な規制を避けた政党の広告についての新たな章を加え、「有権者利益」の保護をはかるべきとする。(T)

●「アドリブ宰相とその演出家—様変わりする官邸のメディア対策」、上杉隆、『論座』、2001年8月号。

本稿は、官邸主導のメディア対策がもたらした変化を分析している。

例えば、従来は番記者による首相の歩きながらの「ぶら下がり取材」だけだったが、小泉首相になってからは立ち止まってテレビカメラをオンにした取材が可能になった。筆者は、小泉首相サイドのメディア対策は「活字よりテレビ、一般紙より週刊誌」という重点の置き方、テレビ出演は番組構成において小泉首相が少数意見の代表者となる場合のみ出演する、などの方針を持ち、しかも小泉首相のアドリブで自在なパフォーマンスがメディア対策を効果的にしていると指摘する。

だが、筆者は、小泉首相サイドのメディア戦術は感覚的な方法論の上に成立し、それが偶然うまく機能してるだけなのではないか、という見方を示す。(N)

●「読者は冷静な判断力を失っていない—メディアの質的向上と報道のあり方が問われている」、篤信彦、『新聞研究』、No.601、2001年8月号。

小泉・田中ブームは、予想をはるかに超えた熱狂ぶりをみせている。メディアも当初異常ともいえる過熱報道をみせ、小泉・田中コンビにどちらかといえば好意的な立場からニュースを流したり特集を組み、その結果内閣支持率は上昇した。しかし次第にメディア、特に活字メディアは小泉内

閣を少し冷静に見つめ始め、批判的な論調もみられるようになってきたという。

筆者はこうしたメディアの変化は、本質的な問題から批判するというより、異常な高支持率の創出に加担したメディア側の反省から、今度は「尋常でない高支持率もかえって問題があり、危険」という情緒的なバランス感覚によって生まれたものであるという。そのため批判の内容にも当を得ていないものが多いとする。

小泉内閣の支持率がミーハー的なポピュリズムに乗った浮ついたものであるという批判も強い。しかし筆者は、読者の当初の情緒的、ムード的支持は変化し、人々が情報収集に気を配り冷静に判断するようになってきていると指摘する。その意味で、政治とメディアは読者が日ごとに質的な向上をし、とどまっていないことを認識したうえで、今こそ核心に迫る議論を展開すべき時期に来ているとする。そして結論として、国民の政治への関心の向上によって、メディアの質的向上や報道のあり方が問われるとの考えが示される。(T)

●「田原総一郎が反論する—小泉政治はポピュリズムではない」、田原総一郎、『論座』、2001年8月号。

高い支持率を維持している小泉政権は、テレビと深く関係した「ポピュリズム（大衆迎合政治）」であるという批判に対して、筆者が反論する。まず、国民が情報のプロになっていること、従来の「密室の談合」への強い批判があること、自民党の利権構造が明るみに出ていることなどを背景にして、現在の政治と社会構造に対する異議申し立ての結果が小泉人気であると述べる。そして、国民は小泉首相が派閥の利害とは距離を持っていることから、改革への可能性を託したと分析する。したがって、驚異的な支持率はむしろ、国民が首相に迎合した結果であると述べている。

また筆者は、テレビは活字メディアに比較して

双方向性が高いと自らの体験から述べており、同時に、視聴者はテレビをクールに見ているし、テレビはカリスマ性を削ぎ取るが故にアイドルを作ってもカリスマは作らないとする。

そして、筆者はテレビメディアがポピュリスト小泉首相・田中外相を持ち上げて人気を煽っていることをテレビ・ファシズムと危険視するのは的を得ず、逆に小泉・田中人気をポピュリズムとして否定する人びとは民主主義を否定しているとして、国民の求めに応じるのがなぜ問題なのかと反論している。(N)

●「激論！座談会 小泉人気は誰が作ったのか—小泉人気とメディアの責任」、筑紫哲也、高野孟、桂敬一、『創』、2001年10月号。

最初に桂が小泉内閣の人気はメディアがつくり出したという視点から問題提起する。森内閣の末期はメディアがKSDや外交機密費の問題を報じるだけで内閣の自壊作用を及ぼし、それが自民党のメディア敵視を生み出したが、一方、小泉内閣においては飯島秘書官のテレビ中心のメディア操縦が戦略的に功を奏し、権力がメディアを取り込んでいると述べる。そして、そのことへのメディアの無自覚さが日本型ファシズムを肥大化させていると批判する。

筑紫は、小泉人気はテレビが作った問題と、政治全般がショー化している2つの問題があると述べて、前者の見方は問題を矮小化するだけであり、小泉人気は小淵、森と続いた政治への失望が生み出したとする。ただ、テレビの内部から見ていてこのメディアは自己の影響力に無自覚であることが危険であると指摘する。

高野は、桂に対して現実のテレビの機能の根本がワイドショーであり、ジャーナリズムではないとした上で、テレビをジャーナリズムと捉えるのは過剰期待であると反論する。そして、テレビに

わずかに残っているジャーナリズム的な部分で何が可能なかを考えるべきだとする。(N)

●「新聞が問われているもの—21世紀を見据えて」、辺見庸、『新聞研究』、No. 602、2001年9月号。

現在フリージャーナリストの辺見は、かつて共同通信社にいた頃は「上等なメディア社会」という閉域の中において上から世の中を見ていたが、今はそれまでとはまったく逆に下から世界を見上げており、その視点からは今の時代に危うさを感じる、と語っている。

2001年の今、マスメディアは時流に便乗し、小泉人気を煽り、小泉政権を翼賛している。さらに、マスメディアの煽り立てがあって、戦後の紙面で市民という概念で語られた人たちは群集と化している。メディアと群集が一緒になり、相乗的に民族主義的、国家主義的傾向を強めている。今ほど危ない時代はない。しかしマスメディアの現場では、その危機を危機として感じる能力が麻痺している。日々のニュース判断はあっても、歴史判断は皆無に等しい。そのことこそが危機であると指摘する。

辺見は、10年後、20年後の後知恵ではなく、今日ただ今のこの時点で、危機を危機として感知し、実相を表現することがジャーナリストに求められていると述べる。そして最後に、「この危ない時代に吞まれるか、時代と戦うか」という問いを立て、その判断は会社ではなく記者個人がすべきであるとし、時代と戦う「例外的な個としての記者」に期待する、と締めくくっている。(J)

※「小泉人気」については他にも『「小泉人気」の異常と報道と—批判精神を忘れたマスコミ』関千枝子、「分析・参院選テレビ報道」『総合ジャーナリズム研究』、No.178、2001年、をはじめ多くの定期行物でとりあげられている。